



## **Cisco UCS Director セルフサービス ポータルガイド、リリース 5.5**

初版：2016年06月14日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

### はじめに vii

対象読者 vii

表記法 vii

関連資料 ix

マニュアルに関するフィードバック x

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート x

### 新機能および変更情報 1

このリリースの新規情報および変更情報 1

### Self-Service Portal の概要 3

Cisco UCS Director Self-Service Portal 3

Self-Service Portal へのログイン 3

ユーザ グループの作成 4

ユーザの追加 5

インターフェイスの詳細 7

### セルフサービス プロビジョニングの使用法 11

サービス リクエスト 11

サービス リクエスト ワークフロー 12

標準のカatalog用サービス リクエストの作成 12

詳細なCatalogのサービス リクエストの作成 18

サービス コンテナ Catalogのサービス リクエストの作成 20

サービス リクエスト ステータスの表示 21

プロビジョニング サービスの延期リクエストの作成 23

サービス リクエスト VM プロビジョニングの使用法 24

既存のアプリケーション コンテナへの VM の追加 27

### サービス リクエストの管理 31

サービス リクエストの管理 31

サービス リクエストの再送信	31
サービス リクエストのキャンセル	32
グループのサービス リクエスト履歴の表示	33
グループのサービス リクエスト履歴の検索	33
グループのサービス リクエスト履歴のエクスポート	33
サービス リクエストの承認	34
サービス リクエストの承認	34
サービス リクエスト承認履歴の表示	34
サービス リクエスト承認履歴の検索	35
サービス リクエスト承認の履歴のエクスポート	35
<b>VM ライフサイクル管理の実行</b>	<b>37</b>
VM ライフサイクル管理アクションについて	37
すべての VM の表示	38
VM の電力管理	38
VM のサイズ変更	39
VM ディスクの作成	41
VM ディスクのサイズ変更	42
VM ディスクの削除	43
vNIC の追加	44
vNIC の置換	45
vNIC の削除	45
VM の詳細の表示	46
VM クライアントの起動	46
VM のインベントリ収集のリクエスト	47
<b>VM スナップショットの管理</b>	<b>49</b>
VM スナップショットの管理	49
VM スナップショットの表示	50
スナップショットの作成	50
スナップショットの復帰	51
スナップショットをゴールデンとしてマーキング	52
スナップショットの削除	53
すべてのスナップショットの削除	54

<b>エンドユーザ レポートの表示</b>	<b>55</b>
エンドユーザ レポートの表示	55
VM サマリーの詳細の表示	57
仮想リソースの詳細の表示	57
vDC の詳細の表示	57
<b>物理レポートの表示</b>	<b>61</b>
物理リソースに関するレポートの表示	61
<b>アカウントिंग リソースの表示</b>	<b>63</b>
リソース アカウントिंगの詳細の表示	63
チャージバックの表示	64
<b>エンドユーザ ダッシュボードの表示</b>	<b>65</b>
エンドユーザ ダッシュボードの表示の有効化	65
レポート ウィジェットの追加	65
<b>ファイルのアップロード サービスの操作</b>	<b>67</b>
OVF ファイルのアップロード	67
OVF ファイルの導入	69
OVF ファイルの削除	70
<b>カタログの操作</b>	<b>71</b>
カタログ管理について	71
カタログの整理	72
詳細カタログの公開について	73
カタログの作成	73
カタログの編集	79





## はじめに

- [対象読者](#), [vii ページ](#)
- [表記法](#), [vii ページ](#)
- [関連資料](#), [ix ページ](#)
- [マニュアルに関するフィードバック](#), [x ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#), [x ページ](#)

## 対象読者

このマニュアルは、Cisco UCS Director を使用し、以下の少なくとも 1 つの分野において責任と専門知識を持つデータセンター管理者を主に対象としています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ
- 仮想化および仮想マシン

## 表記法

テキストのタイプ	表示
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドのラベルのような GUI 要素は、[GUI 要素 (this font) ] のように示しています。 ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルのようなメインタイトルは、[メインタイトル (this font) ] のように示しています。

テキストのタイプ	表示
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体 ( <i>italic</i> ) で示しています。
TUI 要素	テキストベースのユーザ インターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、courier フォントで示しています。
システム出力	システムが表示するターミナルセッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、ボールド体 ( <b>bold</b> ) で示しています。 CLI コマンド内の変数は、イタリック体 ( <i>italic</i> ) で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!, #	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。





## ヒント

「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。



## ワンポイントアドバイス

「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。



## 警告

## 安全上の重要事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。

## 関連資料

### 『Cisco UCS Director Documentation Roadmap』

Cisco UCS Director の資料の詳細なリストについては、次の URL にある『Cisco UCS Director Documentation Roadmap』を参照してください。[http://www.cisco.com/en/US/docs/unified\\_computing/ucs/ucs-director/doc-roadmap/b\\_UCSDirectorDocRoadmap.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/ucs-director/doc-roadmap/b_UCSDirectorDocRoadmap.html)

### 『Cisco UCS Documentation Roadmaps』

すべての B シリーズ マニュアルの一覧については、『Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap』 (URL : <http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/b-series-doc>) を参照してください。

すべての C シリーズ マニュアルの一覧については、<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc> で入手できる『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。



## (注)

『Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap』には Cisco UCS Manager および Cisco UCS Central のドキュメントのリンクが含まれています。『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』には Cisco Integrated Management Controller のドキュメントのリンクが含まれています。

## マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』を参照してください。

新しく作成された、または改訂されたシスコのテクニカル コンテンツをお手元に直接送信するには、『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』 RSS フィードをご購読ください。RSS フィードは無料のサービスです。



# 第 1 章

## 新機能および変更情報

---

この章は、次の項で構成されています。

- [このリリースの新規情報および変更情報, 1 ページ](#)

## このリリースの新規情報および変更情報

次の表に、最新リリースに関するこのガイドでの重要な変更点の概要を示します。この表は、このマニュアルに加えられた変更やこのリリースの新しい機能をすべて網羅するものではありません。

表 1: Cisco UCS Director、リリース 5.5の新機能と動作変更

機能	説明	参照先
標準カタログのサービス リクエスト作成についての変更点	<p>このリリースでは、以下のような変更点が導入されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• サービス リクエストの作成権限：エンド ユーザが [サービス (Services) ] メニュー オプションから標準カタログを作成する場合、有効にする必要があります。</li> <li>• 導入アセスメントの実行：予算、リソースの上限、リソースの可用性のアセスメントを実行します。</li> <li>• プロビジョニングのスケジュール：管理者の設定内容に基づいて、VMを即時、または後からプロビジョニングできます。</li> <li>• リース時間の設定：管理者の設定内容に基づいて、VMのリース時間を設定できます。</li> </ul>	標準のカタログ用サービス リクエストの作成、(12 ページ)
サービス リクエストのキャンセルについての変更点	作成したサービス リクエストをキャンセルできます。	サービス リクエストのキャンセル、(32 ページ)



## 第 2 章

# Self-Service Portal の概要

---

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS DirectorSelf-Service Portal, 3 ページ](#)
- [Self-Service Portal へのログイン, 3 ページ](#)
- [インターフェイスの詳細, 7 ページ](#)

## Cisco UCS DirectorSelf-Service Portal

Cisco UCS DirectorSelf-Service Portal は、内部ユーザと外部のお客様に対してインフラストラクチャサービスを提供することを目的としています。管理者とエンドユーザは Self-Service Portal をセルフサービス プロビジョニング、モニタリング、および管理の各機能に使用できます。Self-Service Portal では、定義されたポリシーとワークフロー サービス リクエストをエンドユーザが使用することで、割り当てられたリソースプールから仮想マシンとアプリケーションをプロビジョニングできます。

## Self-Service Portal へのログイン

新しいユーザを作成してポータルにアクセスできるようにするには、新規ユーザを追加するグループを作成する必要があります。追加された新規ユーザは、標準の Cisco UCS Director ログイン画面から、新しいユーザ ログイン名およびパスワードを使用してログインできます。

## ユーザグループの作成

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理 (Administration)] > [ユーザとグループ (Users and Groups)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザグループ (User Groups)] タブをクリックします。
- ステップ 3** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** [グループの追加 (Add Group)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[名前 (Name)] フィールド	グループまたは顧客組織の名前。 次のような特殊文字を使用できます。().& - _ ~ \$% ^ { } ! '@
[説明 (Description)] フィールド	グループまたは顧客組織の説明 (必要な場合)。
[コード (Code)] フィールド	グループの短い名前またはコード名。この名前は、VM とホスト名テンプレートで使用されます。
[コストセンター (Cost Center)] フィールド	(任意) コストセンターの名前または番号 (必要な場合)。この名前または番号は、グループが関連付けられているコストセンターを表します。この名前は、VMware システム ポリシー VM の命名規則で使用できます。
[連絡先の電子メール (Contact Email)] フィールド	この電子メールは、必要に応じてサービスリクエストおよびリクエスト承認のステータスをグループ所有者に通知する目的で使用されます。
[名 (First Name)] フィールド	連絡先の名。
[姓 (Last Name)] フィールド	連絡先の姓。
[電話 (Phone)] フィールド	連絡先の電話番号。
[住所 (Address)] フィールド	連絡先の住所。

フィールド名	説明
[グループ共有ポリシー (Group Share Policy) ] ドロップダウン リスト	このグループのユーザのグループ共有ポリシーを選択します。 このドロップダウンリストにデータが取り込まれるのは、グループ共有ポリシーを作成した場合だけです。
[ユーザへのリソース割り当てを許可 (Allow Resource Assignment To Users) ] チェックボックス	オンにすると、このグループのユーザは、そのユーザに割り当てられたリソースを持つことができ、これらのリソースを所有できます。また、これらのユーザは、グループに属するリソースを確認できます。ただし、ユーザ間でリソースを共有することはできません。

**ステップ 5** [追加 (Add) ] をクリックします。

#### 次の作業

さらにグループを追加する場合は、この手順を繰り返します。追加するグループごとに、リソース制限を編集し、タグを管理し、ロゴおよびアプリケーション ラベルをカスタマイズできます。

## ユーザの追加

#### はじめる前に

グループにユーザを追加する前に、そのグループが作成されていることを確認してください。

#### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理 (Administration) ] > [ユーザとグループ (Users and Groups) ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザ (Users) ] タブをクリックします。
- ステップ 3** [追加 (Add) ] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ユーザの追加 (Add User) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[ユーザロール (User Role) ] ドロップダウン リスト	ユーザのロール タイプを選択します。

フィールド名	説明
[グループ名 (Group Name) ] ドロップダウンリスト	ユーザがアクセスできるグループを選択します。すでに使用可能なグループを選択するか、または新しいグループを追加できます。  (注) このフィールドは、ユーザ ロールとしてサービス エンドユーザまたはグループ管理者を選択している場合にのみ表示されます。
[MSP組織 (MSP Organization) ] ドロップダウンリスト	ユーザが管理する MSP 組織を選択します。現在使用可能な組織を選択するか、または新しい組織を追加できます。  (注) このフィールドは、ユーザ ロールとして [MSP 管理者 (MSP Admin) ] を選択している場合にのみ表示されます。
[ログイン名 (Login Name) ] フィールド	ログイン名。 次のような特殊文字を使用できます。 ( ) & - _ ` ~ \$ % ^ { } ! ' @
[パスワード (Password) ] フィールド	パスワード。  (注) ユーザに対して Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 認証が設定されている場合、パスワードはローカル サーバではなく、LDAP サーバでのみ検証されます。
[パスワードの確認 (Confirm Password) ] フィールド	確認のためにパスワードを再入力します。
[User Contact Email (ユーザの連絡先電子メール) ] フィールド	電子メールアドレス。  (注) 電子メールアドレスは、サービス リクエストのステータスをグループ所有者に通知し、承認を要求するために必要です。
[名 (First Name) ] フィールド	名。
[姓 (Last Name) ] フィールド	姓。
[電話 (Phone) ] フィールド	ユーザの電話番号です。
[住所 (Address) ] フィールド	ユーザのオフィスの住所です。



フィールド名	説明
[ユーザ無効化の日付を設定 (Set user disable date) ] チェックボックス	<p>システムでユーザアカウントを無効にする日時を設定するには、このチェックボックスをオンにします。ユーザアカウントを無効にすると、ユーザがシステムにログインできなくなります。</p> <p>この日付から1週間前に、アカウントが無効になることを知らせる電子メールメッセージがユーザに送信されます。この自動メールメッセージは、PeriodicNotificationToUserTask システムタスクによって生成され、送信されます。</p> <p>指定された日時に、ユーザアカウントが自動的に無効になります。指定された日付にユーザがシステムにログインすると、ログインセッションが自動的に終了します。</p>
[ロケール (Locale) ] ドロップダウンリスト	<p>このユーザのシステムの言語を個別に選択します。デフォルトでは、[英語 (English) ] に設定されています。</p> <p>このユーザがログインすると、ユーザインターフェイスが選択した言語で表示されます。このロケールの選択は、このユーザにのみ適用されます。</p>

**ステップ 5** [追加 (Add) ] をクリックします。

#### 次の作業

ユーザをメイン ウィンドウから選択し、[プロファイルの管理 (Manage Profiles) ] をクリックすると、任意でそのユーザに複数のロールを割り当てることができます。

## インターフェイスの詳細

Self-Service Portal グラフィカルユーザインターフェイス (GUI) は、特定の Cisco UCS Director 機能が割り当てられた複数のボタンで構成されます。Cisco UCS Director Self-Service Portal GUI には、Cisco UCS Director 情報のサブセットが表示されます。詳細については、『Cisco UCS Director Administration Guide』を参照してください。

ボタン	説明
[カタログ (Catalog) ]	使用可能なカタログの情報を表示します。
サービス	<p>使用可能なサービス リクエストを表示します。このタブから、サービス リクエストの作成とファイルのアップロードも実行できます。このボタンを使用して、支払いの実施と更新、および現在の資金の確認を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• サービス リクエスト</li> <li>• ファイルのアップロード</li> <li>• 支払い情報</li> </ul>
[承認 (Approvals) ]	サービス リクエストの承認のステータスほか、承認を開始したユーザ、カタログ タイプ、および承認を許可したユーザを表示します。
Organization	<p>次の詳細情報を表示するタブが提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 組織のリソースのサマリー</li> <li>• リソース制限値</li> <li>• OS 使用率</li> <li>• その他のレポート (傾向分析データに焦点を当てた追加レポート)</li> </ul>
[仮想リソース (Virtual Resources) ]	<p>次の詳細情報を表示するタブが提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 仮想リソースのサマリー</li> <li>• [vDC]</li> <li>• アプリケーション コンテナ</li> <li>• [VM (VMs) ]</li> <li>• [VM アクション リクエスト (VM Action Requests) ]</li> <li>• ポート グループ</li> <li>• DV ポート グループ</li> <li>• リソース プール</li> <li>• データ ストア</li> <li>• デスクトップ</li> <li>• その他のレポート (傾向分析データに焦点を当てた追加レポート)</li> </ul>

ボタン	説明
[物理リソース (Physical Resources) ]	次の詳細情報を表示するタブが提供されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• vFiler</li><li>• [Vservers (Vservers) ]</li><li>• [ボリューム グループ (Volume Groups) ]</li><li>• サーバ</li><li>• [サービス プロファイル (Service Profiles) ]</li></ul>
アカウンティング (Accounting)	次の詳細情報を表示するタブが提供されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• リソース アカウンティングの詳細</li><li>• チャージバック</li></ul>
[CloudSense™]	レポートを顧客、グループ、またはユーザに提供します。





## 第 3 章

# セルフサービス プロビジョニングの使用方 法

- [サービス リクエスト, 11 ページ](#)
- [サービス リクエスト ワークフロー, 12 ページ](#)
- [標準のカatalog用サービス リクエストの作成, 12 ページ](#)
- [詳細なCatalogのサービス リクエストの作成, 18 ページ](#)
- [サービス コンテナ Catalogのサービス リクエストの作成, 20 ページ](#)
- [サービス リクエスト ステータスの表示, 21 ページ](#)
- [プロビジョニング サービスの延期リクエストの作成, 23 ページ](#)
- [サービス リクエスト VM プロビジョニングの使用方法, 24 ページ](#)
- [既存のアプリケーション コンテナへの VM の追加, 27 ページ](#)

## サービス リクエスト

セルフサービス プロビジョニング機能を使用してサービス リクエストを作成し、仮想マシン (VM)、サービス、またはアプリケーションをプロビジョニングできます。サービス リクエストプロセスではVM作成用のプロビジョニングワークフローを作成しますが、これには次のアクションが含まれます。

- 予算の検証
- 動的なリソース割り当て
- [承認 (Approvals) ]
- プロビジョニング
- ライフサイクルの設定および通知



(注) [展開構成 (Deployment Configuration)] ペインで CPU コアの数またはメモリ割り当てを変更すると、総コストが自動的に更新されて表示されます。

VM をプロビジョニングするまたはオーケストレーション ワークフローを実行するには、最初にサービス リクエストを作成する必要があります。必要に応じて、VM をプロビジョニングするワークフローを実行する前に、1～2 人の管理者または指定されたユーザに承認を要求することができます。VM はただちに承認することも、オリジナルのリクエストから 90 日以内に承認するようにスケジュールすることもできます。

## サービス リクエスト ワークフロー

サービス リクエスト ワークフローは次のいくつかの段階に要約できます。

- **開始** : サービス リクエストの開始。
- **リソース割り当て** : VM プロビジョニングに必要なリソース。
- **承認** : グループの仮想データセンター (vDC) で定義されるサービス リクエストの承認プロセス。サービス リクエストの承認者にはリクエストに関する電子メールが送信されます。承認者がリクエストを承認すると、VM がプロビジョニングされます。
- **プロビジョニング** : VM をプロビジョニングする行為。
- **ライフサイクルスケジュールの設定** : 予定時刻および終了時刻。
- **通知** : VM のプロビジョニングを知らせるためにユーザに送信される電子メール通知。

定義されている場合は、次のプロセスもサービス リクエストのワークフローに適用されます。

- **予算の監視 (オプション)** : このプロセスではグループに VM をプロビジョニングするのに十分なリソースが使用可能かどうか判断されます。リソースは [組織] > [リソース制限] タブを選択して表示できます。リクエストを送信した後、[詳細の表示 (View Details)] を選択してステータスを表示できます。

## 標準のカatalog用サービス リクエストの作成

管理者がカatalogをグループに発行すると、エンドユーザは必要なカatalogを選択してサービス リクエストを作成できます。管理者は、オーケストレーションワークフローが含まれる Self-Service portal をカatalogの形式で提供します。管理者が発行できるカatalogには、標準のカatalog、高度なカatalog、サービス コンテナがあります。



**重要**

この手順は、管理者によって [サービス リクエストの作成 (Create Service Request) ] 権限が自分のロールに対して有効化されている場合にのみ実行できます。[サービス リクエストの作成 (Create Service Request) ] 権限は、[サービス (Service) ] メニューオプションからのみアクセスできる [リクエストの作成 (Create Request) ] オプションを有効化または無効化します。[カタログ (Catalog) ] メニューオプションの [リクエストの作成 (Create Request) ] オプションには影響しません。

**手順**

- ステップ 1**   メニュー バーで、[サービス (Services) ] を選択します。
- ステップ 2**   [サービスリクエスト (Service Requests) ] タブをクリックします。
- ステップ 3**   [リクエストの作成 (Create Request) ] をクリックします。
- ステップ 4**   [サービスリクエストの作成 (Create Service Request) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[カタログタイプ (Catalog Type) ] ドロップダウン リスト	カatalogのタイプ。[標準 (Standard) ] を選択。その他のオプションには以下が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [詳細 (Advanced) ] : このカタログタイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。</li> <li>• [サービスコンテナ (Service Container) ] : このカタログタイプはアプリケーションコンテナで使用されます。</li> </ul>

- ステップ 5**   [送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 6**   [カタログの選択] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[VM所有者 (VM Ownership) ]	
[顧客組織 (Customer Organization) ] ラジオ ボタン	このラジオ ボタンを選択してVMをプロビジョニングする顧客組織を選択します。

[名前 (Name) ]	説明
[顧客組織 (Customer Organizations) ]フィールド	<p>[選択 (Select) ]をクリックして VM をプロビジョニングする顧客組織を選択します。</p> <p>(注) 有効な vDC のある顧客組織が表示されます。</p> <p>このフィールドは [グループ (Group) ]ラジオ ボタンが選択されたときだけ表示されます。</p>
[ユーザ (User) ]ラジオ ボタン	このラジオ ボタンを選択して VM をプロビジョニングするユーザを選択します。
[ユーザ (User) ]フィールド	<p>[選択 (Select) ]をクリックして VM をプロビジョニングするユーザを選択します。このリストには、ユーザへのリソース割り当てを許可するグループからのユーザが表示されます。</p> <p>(注) 現在、特定のエンド ユーザに割り当てることができるのは、VMWare クラウド内の VM だけです。</p>
[カタログタイプ (Catalog Type) ]ドロップダウン リスト	<p>以前に選択したカタログタイプを表示します。次のいずれかを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 標準 (Standard)</li> <li>• 詳細設定 (Advanced)</li> <li>• [サービスコンテナ (Service Container) ]</li> </ul>
[カタログの選択 (Select Catalog) ]ドロップダウン リスト	VM のプロビジョニングに使用されるカタログを選択します。
[導入アセスメントの実行 (Perform deployment assessment) ]チェック ボックス	<p>サービスリクエストの提出前に予算、リソースの上限、リソースの可用性のアセスメントを実行するには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスにオンにすると、アセスメントの概要が [導入アセスメント (Deployment Assessment) ]ペインに表示されます。</p> <p><b>重要</b> このオプションは、VMware カタログ、および ISO ベースでないカタログのみ表示されます。</p>



- ステップ 7** [次へ (Next) ]をクリックします。[導入設定 (Deployment Configuration) ]画面が表示されます。
- ステップ 8** [導入仕様 (Deployment Specification) ]画面で、次のフィールドに入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[VDCの選択 (Select VDC) ]ドロップダウンリスト	VM がプロビジョニングされる VDC。 VDC は管理者によって定義されます。
[コメント (Comment) ]フィールド	導入の設定に関するコメント。
[プロビジョニング (Provision) ]ドロップダウンリスト	[今すぐ (Now) ]または[あとで (Later) ]のいずれかを選択します。  [今すぐ (Now) ]を選択すると、VM はただちにまたは 90 日以内にプロビジョニングされます。[あとで (Later) ]を選択すると、日付選択用のカレンダー、時間と分のドロップダウンリスト、および AM または PM のオプションボタンが表示されます。  <b>重要</b> このチェックボックスは、管理者が[エンドユーザの VM プロビジョニングを後で隠す (Hide end user VM provision later) ]チェックボックスのマークを外している場合にのみ表示されます。
[リース時間 (Lease Time) ]チェックボックス	VM のリース時間を設定するには、このチェックボックスをオンにします。  VM を (自動的に) 終了するまでの VM の保持期間を日数および時間で割り当てることができます。VM は指定の日数および時間の経過後に終了されます。  <b>重要</b> 管理者が VM プロビジョニングに使用されるカタログにリース時間を指定しておらず、[エンドユーザのリース設定を隠す (Hide end user lease configuration) ]チェックボックスのマークを外している場合にのみ、このフィールドが編集可能になります。
[日数 (Days) ]フィールド	この日数が経過すると VM が終了します。  (注) このオプションは、[リース時間 (Lease Time) ]チェックボックスにマークが付いている場合にのみ表示されます。

[名前 (Name) ]	説明
[時間 (Hours) ] フィールド	<p>選択した時間が経過すると VM が終了します。</p> <p>(注) このオプションは、[リース時間 (Lease Time) ] チェック ボックスにマークが付いている場合に表示されます。</p>
[VM名のサフィックス (VM Name Suffix) ] フィールド	<p>必要な場合は、VM のサフィックス名を指定します。名前 (ラベル) が VM 名に追加されます。</p> <p>(注) これは、vDC に関連付けられた VMware システム ポリシー (上記で選択) で管理者がこのオプションを有効にした場合にのみ使用できます。</p>
デフォルトのコスト計算期間の設定 (Default Cost Computation Period Settings)	<p><b>注目</b> これらのフィールドは、[リース時間 (Lease Time) ] チェックボックスがオフになっている場合にのみ表示されます。コスト計算が [サマリー (Summary) ] ペインに表示されます。</p>
[請求期間 (Charge Duration) ] ドロップダウン リスト	<p>ドロップダウンリストから請求期間を選択します。[毎月 (Monthly) ]、[毎時 (Hourly) ]、[毎日 (Daily) ] のいずれかを選択できます。</p>
[月 (Month) ] フィールド	<p>請求期間として [毎月 (Monthly) ] を選択した場合は、デフォルトコストを計算する月数を指定します。</p>
[毎時 (Hourly) ] フィールド	<p>請求期間として [毎時 (Hourly) ] を選択した場合は、デフォルトコストを計算する時間数を指定します。</p>
[毎日 (Daily) ] フィールド	<p>請求期間として、[毎日 (Daily) ] を選択した場合は、コストを計算する日数を指定します。</p>

- ステップ 9** [Next] をクリックします。  
[カスタム仕様 (Custom Specification) ] 画面で、次のフィールドに入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[CPUコア (CPU Cores) ] フィールド	プロビジョニング中の VM に使用されている CPU 数。このリストは、コンピューティングポリシーでサイズ変更オプションを設定している場合にのみ使用可能です。
[メモリ (Memory) ] フィールド	プロビジョニング中の VM のメモリ容量。このリストは、コンピューティングポリシーでサイズ変更オプションを設定している場合にのみ使用可能です。
[ディスク (Disks) ] フィールド	プロビジョニング中の VM のデータストア。選択できるデータストアのリストは、ストレージポリシーで確立された条件により異なります。このオプションはストレージポリシーで有効または無効にすることができます。
[ストレージ階層 (Storage Tier) ] フィールド	プロビジョニング中の VM のストレージエントリ。このリストは、選択されたカタログに対して [仮想ストレージのカタログ (Virtual Storage Catalog) ] が有効にされている場合にのみ表示されます。
[データストアの選択 (Select Datastore) ] ドロップダウン リスト	<p>データストアを選択します。選択内容を確定するには、[送信 (Submit) ] をクリックします。複数のディスクを含むテンプレートでは、ディスクごとにデータストアの選択プロセスを繰り返す必要があります。</p> <p>(注) 各ディスク カテゴリ (システム、データ、データベース、スワップ、およびログ) に選択できるデータストアは1つだけです。データストア項目のリストは、ストレージポリシーの範囲条件により異なります。</p>

**ステップ 10** [Next] をクリックします。  
 [カスタムワークフローの入力値 (Custom Workflow Inputs) ] 画面が表示されます。カタログの作成中に、VM のプロビジョニング用に選択されたカタログで、[プロビジョニング後のカスタムアクション (Post Provisioning Custom Actions) ] が選択された場合、カスタムワークフローの入力値が適用されます。このシナリオでは、プロビジョニング後のワークフローで、エンドユーザはカスタム入力指定できます入力オプションはカタログに接続されたワークフローによって異なります。次のフィールドに入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[MACアドレス (MAC Address) ] フィールド	サーバの MAC アドレス。
[IPアドレス (IP Address) ] フィールド	サーバの IP アドレス。
[ホスト名 (Host Name) ] フィールド	サーバのホスト名。

**ステップ 11** [Next] をクリックします。

**ステップ 12** [導入アセスメントの実行 (Perform deployment assessment) ] チェック ボックスをオンにした場合、次に [導入アセスメント (Deployment Assessment) ] ペインに表示されたアセスメントのレポートを確認します。  
このアセスメントレポートにエラーが特定されていた場合、前のペインに戻り、リクエストの送信前にエラーを修正する必要があります。アセスメントレポートにエラーが表示されなかった場合、次のペインに進むことができます。

**ステップ 13** [Next] をクリックします。  
[サマリー (Summary) ] 画面が表示されます。情報が正確であるか確認します。

**ステップ 14** [送信 (Submit) ] をクリックします。  
[送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、サービス リクエストが正常に送信されたことを確認します。

### 次の作業

サービス リクエストのステータスを表示します。

## 詳細なカタログのサービス リクエストの作成

管理者がグループにカタログを発行すると、エンドユーザは必要なカタログを選択してサービス リクエストを作成できます。管理者が発行できるカタログには、標準のカタログ (VMの作成) 、高度なカタログ (オーケストレーションワークフロー) 、サービス コンテナ (アプリケーション コンテナ) があります。

### はじめる前に

このタイプのサービス リクエストでは、詳細なタイプのカタログを選択できることが必要です。

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[サービス (Services) ] を選択します。
- ステップ 2 [サービスリクエスト (Service Requests) ] タブをクリックします。
- ステップ 3 [リクエストの作成 (Create Request) ] をクリックします。
- ステップ 4 [サービスリクエストの作成 (Create Service Request) ] ダイアログボックス ([カタログの選択 (Catalog Selection) ] ペイン) で、次のフィールドに入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[カタログタイプ (Catalog Type) ] ドロップダウン リスト	カatalogのタイプ。次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [標準 (Standard) ] : このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。</li> <li>• [詳細 (Advanced) ] : このカタログタイプはオーケストレーションワークフロー専用です。</li> <li>• [サービスコンテナ (Service Container) ] : このカタログ タイプはアプリケーションコンテナで使用されます。</li> </ul>
[カタログの選択 (Select Catalog) ] ドロップダウン リスト	プロビジョニングするVMを選択します。カタログはカタログ形式のVMです。

- ステップ 5 [カタログタイプ (Catalog Type) ] ドロップダウン リストで、[詳細 (Advanced) ] を選択します。[サービスリクエストの作成 (Create Service Request) ] ペインが表示されます。
- ステップ 6 [カタログ (Catalog) ] ドロップダウン リストからカタログを選択します。
- ステップ 7 [次へ (Next) ] をクリックします。
- ステップ 8 [ワークフロー (Workflow) ] ドロップダウン リストから、サービス コンテナを選択します。[サマリー (Summary) ] ペインが表示されます。情報が正確であるか確認します。
- ステップ 9 [送信 (Submit) ] をクリックします。  
[送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、サービス リクエストが正常に送信されたことを確認します。

次の作業

既存のサービス リクエストを表示します。

# サービス コンテナ カatalogのサービス リクエストの作成

管理者がグループにカatalogを発行すると、エンドユーザは必要なカatalogを選択してサービス リクエストを作成できます。管理者が発行できるカatalogには、標準のカatalog (VMの作成)、高度なカatalog (オーケストレーションワークフロー)、サービス コンテナ (アプリケーション コンテナ) があります。

## はじめる前に

このタイプのサービス リクエストを作成するには、サービス コンテナ カatalogが選択可能である必要があります。

## 手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[サービス (Services) ]を選択します。
- ステップ 2** [サービスリクエスト (Service Requests) ]タブをクリックします。
- ステップ 3** [リクエストの作成 (Create Request) ]をクリックします。
- ステップ 4** [サービスリクエストの作成 (Create Service Request) ]ダイアログボックス ([カatalogの選択 (Catalog Selection) ]ペイン) で、次のフィールドに入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[カatalogタイプ (Catalog Type) ]ドロップダウン リスト	カatalogのタイプ。次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [標準 (Standard) ]: このカatalog タイプは標準のカatalogに使用されます。</li> <li>• [詳細 (Advanced) ]: このカatalog タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。</li> <li>• [サービスコンテナ (Service Container) ]: このカatalog タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。</li> </ul>
[カatalogの選択 (Select Catalog) ]ドロップダウン リスト	プロビジョニングするVMを選択します。カatalogはカatalog形式のVMです。

- ステップ 5** [カatalogタイプ (Catalog Type) ]ドロップダウン リストで、[サービスコンテナ (Service Container) ]を選択します。

[サービスリクエストの作成 (Create Service Request) ] ペインが表示されます。

- ステップ 6** [カタログ (Catalog) ] ドロップダウン リストからカタログを選択します。
- ステップ 7** [次へ (Next) ] をクリックします。
- ステップ 8** [サマリー (Summary) ] ペインで情報が正確であるか確認してから [送信 (Submit) ] をクリックします。  
[送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、サービス リクエストが正常に送信されたことを確認します。

### 次の作業

既存のサービス リクエストを表示します。

## サービス リクエスト ステータスの表示

### はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

### 手順

- ステップ 1** [サービス (Services) ] > [サービスリクエスト (Service Request) ] タブを選択します。
- ステップ 2** サービス リクエストを選択します。
- ステップ 3** [詳細の表示 (View Details) ] をクリックします。  
[サービスリクエスト (Service Request) ] 画面に、サービス リクエストおよび関連するワークフローステップの詳細が表示されます。各ワークフローステップに関するステータスは、このページから表示します。各ステップの (色分けされた) ステータスに加えて、時間などの詳細も表示されます。
- 灰色：現在もそのステップを完了する必要があることを示します。
  - 緑色：ステップが正常に完了したことを示します。
  - 赤色：ステップに失敗したことを示します。失敗した理由もステップの下に記載されます。
  - 青色：ステップを完了するにはユーザから追加の入力が必要であることを示します。たとえば、そのサービス リクエストに対して承認が定義されていた場合は、青色でサービス リクエストが承認を待っていることが示されます。

[名前 (Name) ]	説明
[概要] セクション	
[リクエストID (Request ID) ] フィールド	サービス リクエスト ID 番号。

[名前 (Name) ]	説明
[リクエストタイプ (Request Type) ] フィールド	リクエストのタイプ (VM など) 。
[vDC] フィールド	VM がプロビジョニングされる vDC。
[イメージ (Image) ] フィールド	VM のプロビジョニングに使用されるイメージ。
[リクエスト日時 (Request Time) ] フィールド	サービス リクエストが作成された時間。
[ステータスのリクエスト (Request Status) ] フィールド	サービス リクエストのステータス (完了、キャンセル、失敗など) 。
[コメント (Comments) ] フィールド	サービス リクエストの作成中に追加したコメント。
[所有 (Ownership) ] セクション	
[グループ] (Group) フィールド	サービス リクエストを行ったユーザが属するグループ。
[送信ユーザ (Initiating User) ] フィールド	サービス リクエストを送信したユーザ。
[期間(時間) (Duration Hours) ] フィールド	VM がアクティブである期間の長さ。この値を定義した場合は、指定した時間の経過後に VM が削除されます。
[予定時刻 (Scheduled Time) ] フィールド	VM がプロビジョニングされる時刻。これを定義した場合、スケジュールされた日付の午前 6 時に VM がプロビジョニングされます。この値を定義しない場合は、リクエストのワークフローが完了した直後に VM がプロビジョニングされます。
[カタログ情報 (Catalog Information) ] セクション	
[vDC 所有者の電子メール (vDC Owner Email) ]	vDC を作成した管理者の電子メール ID。
[承認ユーザ (Approving Users) ] セクション	VM のプロビジョニングを成功させるために、サービス リクエストを承認する必要があるユーザ。
[カタログ項目名 (Catalog Item Name) ]	プロビジョニングに使用するカタログ項目の名前。



[名前 (Name) ]	説明
[カタログ項目の説明 (Catalog Item Description) ] セクション	
[SRコスト (SR Cost) ] フィールド	VM のプロビジョニングの予測コスト。このコストは、カタログ項目に対して定義されたコストモデルに基づいて決定されます。

(注) 承認者は、承認を必要とするサービス リクエストを [承認 (Approvals) ] タブで確認できます。

## プロビジョニング サービスの延期リクエストの作成

プロビジョニングの延期機能を使用して、VM のプロビジョニングを後の時刻および日付にスケジューリングできます。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[サービス (Service) ] をクリックして、[サービスリクエスト (Service Requests) ] を選択します。
- ステップ 2** [サービスリクエスト (Service Requests) ] タブで、[リクエストの作成 (Create Request) ] をクリックします。
- ステップ 3** [サービスリクエストの作成 (Create Service Request) ] 画面で、次のフィールドに入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[カタログタイプ (Catalog Type) ] ドロップダウン リスト	次のカタログのタイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [標準 (Standard) ] : このカタログタイプは標準のカタログに使用されます。</li> <li>• [詳細 (Advanced) ] : このカタログタイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。</li> <li>• [サービスコンテナ (Service Container) ] : このカタログタイプはアプリケーション コンテナで使用されます。</li> </ul>
[カタログの選択 (Select Catalog) ] ドロップダウン リスト	カタログを選択します。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 [導入設定 (Deployment Configuration) ] 画面で、次のフィールドを入力して設定を定義します。

[名前 (Name) ]	説明
[VDCの選択 (Select VDC) ] ドロップダウンリスト	VDC を選択します。
[コメント (Comments) ] フィールド	サービス リクエストの作成中に追加したコメント。
[プロビジョニング (Provision) ] ドロップダウンリスト	暫定の状態を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [後で (Later) ] : 特定の日時を入力する場合に選択します。</li> <li>• [現在 (Now) ] : プロビジョニングを今すぐ開始する場合に選択します。</li> </ul>
[次の期間後にVMの電源をオフにする (Power OFF the VM after) ] チェックボックス	オンにすると、プロビジョニングの完了後に、システムにより VMの電源がオフにされます。

ステップ 6 [閉じる (Close) ] をクリックします。

## サービス リクエスト VM プロビジョニングの使用方法

Self-Service Portalを使用して、エンド ユーザ専用の VM をプロビジョニングできます。[Assign to user (ユーザへの割り当て) ] チェックボックスをオンにした場合、VM をプロビジョニングしたエンド ユーザに所有権が割り当てられます。プロビジョニングの完了後、VM はエンド ユーザに割り当てられます。[Assign to user (ユーザへの割り当て) ] チェックボックスをオフにした場合、VM は (IT) グループに対してプロビジョニングされます。当該グループ内のユーザは、その VM を確認できます。

### 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[サービス (Service) ][サービスリクエスト (Service Requests) ] > タブを選択します。
- ステップ 2 [リクエストの作成 (Create Request) ] をクリックします。
- ステップ 3 [リクエストの作成 (Create Request) ] ダイアログボックス ([カタログの選択 (Catalog Selection) ] 画面) で、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[カタログタイプ (Catalog Type) ] ドロップダウン リスト	<p>カタログのタイプ。次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [標準 (Standard) ] : このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。</li> <li>• [詳細 (Advanced) ] : このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。</li> <li>• [サービスコンテナ (Service Container) ] : このカタログ タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。</li> </ul>

**ステップ 4** [送信 (Submit) ] をクリックします。

**ステップ 5** [カタログの選択 (Catalog Selection) ] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[Assign to user (ユーザへの割り当て) ] チェックボックス	<p>このチェックボックスをオンにした場合、VM をプロビジョニングしたエンドユーザに所有権が割り当てられます。プロビジョニングの完了後、VM はエンドユーザに割り当てられます。</p> <p>[Assign to user (ユーザへの割り当て) ] チェックボックスをオフにした場合、VM は (IT) グループに対してプロビジョニングされます。当該グループ内のユーザは、そのVMを確認できます。</p>
[カタログタイプ (Catalog Type) ] ドロップダウン リスト	<p>カタログのタイプ。次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [標準 (Standard) ] : このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。</li> <li>• [詳細 (Advanced) ] : このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。</li> <li>• [サービスコンテナ (Service Container) ] : このカタログ タイプはアプリケーション コンテナで使用されます。</li> </ul>

[名前 (Name) ]	説明
[カタログの選択 (Select Catalog) ] ドロップダウンリスト	プロビジョニングする VM を選択します。カタログはカタログ形式の VM です。

**ステップ 6** [次へ (Next) ] をクリックします。

**ステップ 7** [導入設定 (Deployment Configuration) ] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[VDCの選択 (Select VDC) ] ドロップダウンリスト	このチェックボックスをオンにした場合、VM をプロビジョニングしたエンドユーザに所有権が割り当てられます。プロビジョニングの完了後、VM はエンドユーザに割り当てられます。 [Assign to user (ユーザへの割り当て) ] チェックボックスをオフにした場合、VM は (IT) グループに対してプロビジョニングされます。当該グループ内のユーザは、その VM を確認できます。
[コメント (Comment) ] フィールド	カタログのタイプ。次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [標準 (Standard) ] : このカタログ タイプは標準のカタログに使用されます。</li> <li>• [詳細 (Advanced) ] : このカタログ タイプはオーケストレーション ワークフロー専用です。</li> <li>• [サービスコンテナ (Service Container) ] : このカタログ タイプはアプリケーションコンテナで使用されます。</li> </ul>
[プロビジョニング (Provision) ] ドロップダウンリスト	プロビジョニングする VM を選択します。カタログはカタログ形式の VM です。
[リース時間 (Lease Time) ] チェックボックス	VM のリース時間。

**ステップ 8** [Next] をクリックします。

**ステップ 9** [カスタム仕様 (Custom Specification) ] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[CPUコア (CPU Cores) ] ドロップダウン リスト	プロビジョニングする VM の CPU コアを選択します。
[メモリ (Memory) ] ドロップダウン リスト	プロビジョニングする VM のメモリ容量を選択します。

**ステップ 10** [Next] をクリックします。

**ステップ 11** [サマリー (Summary) ] 画面を確認します。

## 既存のアプリケーション コンテナへの VM の追加

### はじめる前に

セルフサービス ユーザによるコンテナのプロビジョニングは、管理者 GUI を使用して定義されます。追加情報については『Cisco UCS Director アドミニストレーションガイド』を参照してください。管理者は特定のグループにカタログを割り当てる必要があります。このタスクを完了すると、Self-Service portal 内のカタログのグループへの関連付けを表示することができます。

### 手順

**ステップ 1** メニューバーで [カタログ (Catalog) ] を選択します。

**ステップ 2** カタログをクリックします。

**ステップ 3** [サービスリクエストの作成 (Create Service Request) ] ダイアログボックス ([カタログの選択 (Catalog Selection) ] 画面) で、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[カタログタイプ (Catalog Type) ] ドロップダウン リスト	<p>カタログのタイプ。次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [標準 (Standard) ] : このカタログタイプは標準のカタログに使用されます。</li> <li>• [詳細 (Advanced) ] : このカタログタイプはオーケストレーションワークフロー専用です。</li> <li>• [サービスコンテナ (Service Container) ] : このカタログタイプはアプリケーションコンテナで使用されます。</li> </ul>

[名前 (Name) ]	説明
[カタログの選択 (Select Catalog) ] ドロップダウン リスト	プロビジョニングする VM を選択します。カタログはカタログ形式の VM です。

**ステップ 4** [カタログタイプ (Catalog Type) ] ドロップダウン リストで、[サービスコンテナ (Service Container) ] を選択します。

**ステップ 5** [カタログ (Catalog) ] ドロップダウン リストからカタログを選択します。

**ステップ 6** [次へ (Next) ] をクリックします。

**ステップ 7** [導入設定 (Deployment Configuration) ] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[コメント (Comment) ] フィールド	カタログのタイプ。次のいずれかを実行します。
[プロビジョニング (Provision) ] ドロップダウン リスト	[今すぐ (Now) ] または [後で (Later) ] のいずれかを選択します。[後で (Later) ] を選択する場合、特定の時間と日付を選択してください。
[サービスコンテナ名 (Service Container Name) ] フィールド	サービス コンテナの名前。

**ステップ 8** [Next] をクリックします。

**ステップ 9** [送信 (Submit) ] をクリックします。

[送信結果 (Submit Result) ] ダイアログボックスで、サービス リクエストが正常に送信されたことを確認します。

**ステップ 10** メニュー バーで、[仮想リソース (Virtual Resources) ] > [アプリケーションコンテナ (Application Containers) ] を選択します。

**ステップ 11** [アプリケーションコンテナ (application container) ] をクリックします。

**ステップ 12** [VMの追加 (Add VMs) ] をクリックします。

**ステップ 13** [VMの管理 (Manage VMs) ] ダイアログ ボックスで鉛筆アイコンをクリックします。

**ステップ 14** [仮想マシンの編集 (Edit Virtual Machines Entry) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[その他のVM (Additional VMs) ] フィールド	その他の VM インスタンスの数 (注) VMインスタンスの最大数は、管理者 GUI を使用して定義されます。許可されている値を越えた値を入力すると、エラーメッセージが表示されます。

**ステップ 15** [送信 (Submit) ] をクリックします。

---







## 第 4 章

# サービス リクエストの管理

---

この章は、次の項で構成されています。

- [サービス リクエストの管理](#), 31 ページ
- [サービス リクエストの承認](#), 34 ページ

## サービス リクエストの管理

以前に送信したサービス リクエストを表示、再送信、およびキャンセルできます。グループのサービス リクエスト履歴を表示することもできます。

## サービス リクエストの再送信

ユーザは失敗したサービス リクエストを再送信できます。サービス リクエストは次の理由で失敗する場合があります。

- 時間の割り当て。
- VM をプロビジョニング中のグループのリソース制限を超えた場合。
- サービス リクエストの作成中にエンドユーザから正しい情報が提供されない場合のプロビジョニング。
- UCS Director とデバイス間の接続の問題。

### はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

## 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[サービス (Services) ]をクリックして、[サービスリクエスト (Service Requests) ]タブを選択します。
- ステップ 2** サービス リクエストを選択します。
- ステップ 3** [リクエストの再送信] ボタンをクリックして、失敗したリクエストを再送信します (サービス リクエストを右クリックして、[リクエストの再送信] を選択することもできます)。
- ステップ 4** [サービスリクエストの再送信 (Resubmit Service Request) ]ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[ステップの再送信 (Resubmit Step) ]ドロップダウンリスト	再送信ステップを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• エンド ユーザによる開始</li> <li>• HyperV リソースの割り当て</li> <li>• プロビジョニング</li> </ul>
[承認済みの場合は承認をスキップ (Skip approvals if already approved) ]チェックボックス	オンにした場合、サービス リクエストがすでに承認済みの場合はステップをスキップします。 すべての承認を処理する場合は、このチェックボックスをオフにします。

- ステップ 5** [送信 (Submit) ]をクリックします。

## サービス リクエストのキャンセル

サービス リクエストを送信した後、何らかの理由がある場合にはリクエストをキャンセルできます。システムのエンド ユーザは、自分が作成したサービス リクエストをキャンセルできます。

## 手順

- ステップ 1** メニューで、[サービス (Services) ]>[サービスリクエスト (Service Requests) ]を選択します。
- ステップ 2** キャンセルする必要があるサービス リクエストのエントリを選択します。
- ステップ 3** [リクエストのキャンセル (Cancel Request) ]をクリックします。
- ステップ 4** [送信 (Submit) ]をクリックしてサービス リクエストをキャンセルします。

## グループのサービス リクエスト履歴の表示

エンド ユーザは作成されたすべてのサービス リクエストを表示できます。

### はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

### 手順

メニューバーで、[サービス (Services)] をクリックして、[サービスリクエスト (Service Requests)] タブを選択します (上記のステップ 1 を参照)。

## グループのサービス リクエスト履歴の検索

エンド ユーザは任意のグループのリクエスト履歴を検索できます。

### はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

### 手順

- 
- |               |   |
|---------------|---|
| <b>ステップ 1</b> | メニューバーで、[組織 (Organizations)] > [サービスリクエスト (Service Request)] タブを選択します。    |
| <b>ステップ 2</b> | 検索フィールドに、テキストまたはサービス リクエスト番号を入力します。<br>(注) 条件はいずれかのカラムの任意のテキストにすることができます。 |
- 

## グループのサービス リクエスト履歴のエクスポート

すべてのグループまたは特定のグループのサービス リクエストのレポートを表形式でエクスポートできます。

### はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[サービス (Services)] > [サービスリクエスト (Service Requests)] を選択します。
- ステップ 2** [レポートのエクスポート (Export Report)] アイコンをクリックして、サービス リクエストのレポートを生成します。  
レポートは PDF、CSV、または XLS 形式でエクスポートできます。
- 

## サービス リクエストの承認

VMをプロビジョニングする前に、ユーザがサービスリクエストを承認する必要があります。ユーザはサービスの管理者でも IT 管理者でも構いません。サービスリクエストが開始されると、サービスリクエストのワークフローに VM の承認ステップができ、ここに承認者名が表示されます。サービスリクエストに関する電子メール通知も承認者に送信されます。承認されると、次のステップ（たとえば、プロビジョニング）が開始されます。

## サービス リクエストの承認

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[サービス (Services)] > [サービスリクエスト (Service Requests)] タブを選択します。
- ステップ 2** サービス リクエストを選択します。
- ステップ 3** [承認 (Approve)] をクリックします。
- ステップ 4** 必要に応じて、追加のコメントを入力します。
- ステップ 5** [承認 (Approve)] をクリックして、プロセスを終了します。
- 

## サービス リクエスト承認履歴の表示

### はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

### 手順

メニューバーで、[組織] タブをクリックして、[承認記録]>[承認記録] を選択します。承認済みか保留かにかかわらず、すべてのサービス リクエストが一覧表示されます。

### 次の作業

サービス リクエスト履歴を検索します。

## サービス リクエスト承認履歴の検索

エンドユーザは現在のサービス リクエストのリストを検索できます。

### はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで、[サービス (Services) ]>[サービスリクエスト (Service Requests) ] タブを選択します。
  - ステップ 2** 検索フィールドに検索する用語を入力して、承認の現在のリストをフィルタリングします。
- 

## サービス リクエスト承認の履歴のエクスポート

すべてのサービス リクエスト承認のレポートを表形式でエクスポートできます。

### はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで、[承認 (Approvals) ]>[承認記録 (My Approvals) ] を選択します。
  - ステップ 2** [レポートのエクスポート (Export Report) ] アイコンをクリックして、承認のレポートを生成します。
-





## 第 5 章

# VM ライフサイクル管理の実行

この章は、次の項で構成されています。

- [VM ライフサイクル管理アクションについて, 37 ページ](#)
- [VM の電力管理, 38 ページ](#)
- [VM のサイズ変更, 39 ページ](#)
- [VM ディスクの作成, 41 ページ](#)
- [VM ディスクのサイズ変更, 42 ページ](#)
- [VM ディスクの削除, 43 ページ](#)
- [vNIC の追加, 44 ページ](#)
- [vNIC の置換, 45 ページ](#)
- [vNIC の削除, 45 ページ](#)
- [VM の詳細の表示, 46 ページ](#)
- [VM クライアントの起動, 46 ページ](#)
- [VM のインベントリ収集のリクエスト, 47 ページ](#)

## VM ライフサイクル管理アクションについて

ユーザは、管理者によって許可されている、プロビジョニング後のライフサイクル管理アクションを実行できます。また、グループの下でサービスリクエストを使用して、プロビジョニングされた仮想マシン (VM) の全リストを表示することもできます。特定のグループに属するすべての VM が表示されます。実行可能なライフサイクル管理アクションは次のとおりです。

- VM の電源使用の管理
- VM のサイズ変更
- VM ディスクの作成

- VM ディスクの削除
- vNIC の追加
- vNIC の削除

## すべての VM の表示

すべての VM を表示する機能を使用すると、すべての VM と VM ID、ホスト名、IP アドレス、および電源の状態などの詳細が表示されます。



(注) VM で VM アクションを表示するには、管理者がグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション (End User Self-Serve options)] を有効にして、許可を与える必要があります。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックして、[VM] タブを選択します。
- ステップ 2** リストから VM のエントリを選択するか、VM を右クリックしてその VM で使用できるアクションを表示します。

### 次の作業

VM のリソースを管理します。

## VM の電力管理

VM の電源管理機能には、電源オン、電源オフ、電源の一時停止、VM のリセットなどが含まれています。

### はじめる前に

VM をプロビジョニングします。

### 手順

- ステップ 1** [仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックして、[VM] を選択します。
- ステップ 2** VM を右クリックし、[電源オン (Power On)] を選択します。  
[VM タスク] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。



[名前 (Name) ]	説明
[VM名 (VM Name) ] フィールド	VM の名前。
[タスク (Task) ] フィールド	選択した電力管理タスク。
[コメント (Comments) ] フィールド	必要な場合は、コメントを入力します。
[アクションのスケジュール設定 (Schedule Action) ] フィールド	VM の電源を今すぐオンにするか、特定の日にオンにするかを指定します。

(注) [類似フィールドのコメント (Similar field's Comments) ] ペインと [アクションのスケジュール設定 (Schedule Actions) ] ペインに、次のアクションが表示されます。

操作	説明
[電源オフ (Power Off) ]	VM の電源をオフにします。
[一時停止 (Suspend) ]	VM を一時停止の状態にします。
[ゲストのシャットダウン (Shutdown Guest) ]	VM でゲスト OS をシャットダウンします。
Standby	VM をスタンバイの状態にします。
[リセット (Reset) ]	VM のハードリセットを実行します。
Reboot	VM のソフトリブートを実行します。

ステップ 3 [続行 (Proceed) ] をクリックします。

## VM のサイズ変更

はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション (End User Self-Service Options) ] を有効にして、許可を与える必要もあります。

## 手順

- ステップ 1** [仮想リソース (Virtual Resources) ] をクリックして、[VM] を選択します。
- ステップ 2** VM を右クリックして [VM のサイズ変更 (Resize VM) ] を選択します。
- ステップ 3** [VM のサイズ変更 (Resize VM) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[VM 名 (VM Name) ] フィールド	選択した VM の名前。
[現在の割り当て CPU (Current Allocated CPU) ] フィールド	VM によって使用中の割り当て済み CPU の数。
[現在の割り当てメモリ (GB) (Current Allocated Memory (GB)) ] フィールド	VM に割り当てられているメモリ容量。
[新しい CPU 数 (New CPU Count) ] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストから必要な CPU を選択します。
[新しいメモリ (New Memory) ] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストから必要なメモリ容量を選択します。
[現在の CPU コスト (通貨: USD) (Current CPU Cost (Currency: USD)) ] フィールド	現在の時間あたりの CPU コストが表示されます。この値は、VM に現在割り当てられている CPU に基づいて計算されます。
[現在のメモリコスト (通貨: USD) (Current Memory Cost (Currency: USD)) ] フィールド	現在の時間あたりのメモリ コストが表示されます。この値は、VM に現在割り当てられているメモリに基づいて計算されます。
[新規 CPU コスト (通貨: USD) (New CPU Cost (Currency: USD)) ] フィールド	VM に指定した新規 CPU 数の、1 時間あたりの CPU コストが表示されます。
新規メモリコスト (通貨: USD) (New Memory Cost (Currency: USD))	VM に指定した新規メモリについて、1 時間あたりのメモリ コストが表示されます。

- ステップ 4** [サイズ変更 (Resize) ] をクリックします。

## VM ディスクの作成

### はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション (End User Self-Service Options) ] を有効にして、許可を与える必要もあります。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources) ] をクリックして、[VM] タブを選択します。
- ステップ 2** VM を右クリックして [VM ディスクの作成 (Create VM Disk) ] を選択します。
- ステップ 3** [VM ディスクの作成 (Create VM Disk) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[VM名 (VM Name) ] フィールド	選択した VM の名前。
[新しいディスク(GB) (New Disk (GB)) ] フィールド	VM のディスク サイズ (GB 単位) を入力します。
[ディスクタイプの選択 (Select Disk Type) ] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから必要なディスクを選択します。
[データストアの選択 (Select Datastore) ] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストからデータストアを選択します。 (注) 使用可能なデータストアの選択肢は、VM (具体的には VM の vDC) に関連付けられているストレージポリシーに応じて変わります。
[シンプロビジョニング (Thin Provision) ] チェックボックス	VM 作成中にシンプロビジョニングを使用するにはこのチェックボックスをオンにします。 (注) シンプロビジョニングは、物理ストレージ容量の動的割り当てをイネーブルにし、VM ストレージの使用率が向上します。
[新規ディスクコストの計算 (Compute New Disk Cost) ] フィールド	このオプションでは、VM ディスクに指定したデータストアと新しいディスク サイズに基づいて、ディスクのコストが 1 時間ごとに計算されて表示されます。

ステップ 4 [作成 (Create) ] をクリックします。

## VM ディスクのサイズ変更

この機能を使用すると、VM に割り振られる (プロビジョニングされる) ディスク領域を変更できます。デフォルトでは、VM のディスク サイズを増やす操作だけが可能です。



(注) VM のディスク サイズを拡大できますが、縮小はできません。

### はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション (End User Self-Service Options) ] を有効にして、許可を与える必要もあります。

### 手順

- ステップ 1 メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources) ] をクリックして、[VM] タブを選択します。
- ステップ 2 VM を右クリックし、[VM ディスクのサイズ変更 (VM Disk Resize) ] を選択します。
- ステップ 3 [VM ディスクのサイズ変更 (Resize VM Disk) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[VM 名 (VM Name) ] フィールド	VM の名前。 この名前は編集できません。
[ディスクの選択 (Select Disk) ] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストから VM ディスクを選択します。
[プロビジョニング済総容量 (GB) (Total Provisioned (GB)) ] フィールド	VM 上のプロビジョニング容量の合計を表示します。
[新しいサイズ(GB) (New Size (GB)) ] フィールド	VM の新しいサイズ。新しいディスク サイズはプロビジョニングサイズの合計より大きい必要があります。
[現在のディスクコスト(通貨: USD) (Current Disk Cost (Currency: USD)) ] フィールド	1 時間あたりの現在のディスク コストを表示します。

[名前 (Name) ]	説明
[新規ディスクコストの計算 (Compute New Disk Cost) ] フィールド	このオプションは、指定した新しいディスクサイズに基づいて、1 時間ごとにディスク コストを計算します。
[新しいディスクコスト(通貨: USD) (New Disk Cost (Currency: USD)) ] フィールド	VMに指定された新しいディスクサイズの1時間あたりのディスク コストを表示します。

**ステップ 4** [サイズ変更 (Resize) ] をクリックします。

## VM ディスクの削除

### はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション (End User Self-Service Options) ] を有効にして、許可を与える必要もあります。

### 手順

**ステップ 1** メニューで、[仮想リソース (Virtual Resources) ] をクリックして、[VM] を選択します。

**ステップ 2** VM を右クリックして [VM ディスクの削除 (Delete VM Disk) ] を選択します。

**ステップ 3** [VM ディスクの削除] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[VM名 (VM Name) ] フィールド	選択した VM の名前。
[ディスク名の選択] (Select Disk Name) ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストからハードディスクを選択します。

**ステップ 4** [削除 (Delete) ] をクリックします。

## vNIC の追加

VM には複数の vNIC を追加できます。VM に vNIC を追加または置き換えるオプションが備わっています。使用可能なオプションはお使いの vDC にマップされているネットワーク ポリシーおよび特定の VM に関連付けられているネットワーク ポリシーによって異なります。

### はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション (End User Self-Service Options)] を有効にして、許可を与える必要もあります。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックして、[VM] を選択します。
- ステップ 2** VM を右クリックし、[vNIC の追加 (Add vNICs)] を選択します。[VM vNIC の追加 (Add VM vNICs)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [操作 (Operation)] ドロップダウン リストから、[追加 (Add)] を選択します。  
[編集] アイコンおよび [削除] アイコンは、このウィンドウ内の新規 vNIC の編集または削除だけに使用されます。
- ステップ 4** [追加 (Add)] アイコンをクリックして vNIC を追加します。  
この手順は、ネットワーク ポリシーによって vNIC が特定の数に制限されている場合は許可されません。

[名前 (Name)]	説明
[NIC エイリアス (NIC Alias)] ドロップダウン リスト	vNIC エイリアス。
[ポート グループ名] フィールド	ポート グループの名前。
[アダプタのタイプ (Adapter Type)] ドロップダウン リスト	アダプタ タイプこれを選択するには、[テンプレートからアダプタ タイプをコピー (Copy Adapter Type from Template)] をネットワーク ポリシー内で無効にする必要があります。
[DHCP] チェックボックス	DHCP を使用して IP アドレスを割り当てます。
[ゲートウェイ IP アドレス (Gateway IP Address)] フィールド	ゲートウェイの IP アドレスを入力します。  (注) NIC エイリアス、ポートグループ名、アダプタ タイプ、DHCP の選択は、VM (具体的には VM の vDC) に関連付けられたネットワーク ポリシーの設定によって異なります。

ステップ 5 [送信 (Submit) ] をクリックします。

---

## vNIC の置換

置換操作を行うと、すべての既存の vNIC が VM から削除されます。新しい vNIC は [追加 (Add) ] アイコンを使用して追加します。

### はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成し、既存の vNIC を使用可能な状態にしておきます。管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション (End User Self-Service Options) ] を有効にして、許可を与える必要もあります。

### 手順

---

- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース (Virtual Resources) ] をクリックして、[VM] を選択します。
  - ステップ 2 VM を右クリックして [vNIC の削除 (Delete vNICs) ] を選択します。  
[VM vNIC の削除 (Delete VM vNICs) ] ダイアログボックスが表示されます。
  - ステップ 3 [VM vNIC] ドロップダウン リストから、vNIC を選択します。  
[項目の選択 (Select Items) ] ダイアログボックスが表示されます。
  - ステップ 4 削除する vNIC のチェックボックスをオンにするか、[すべてオン (Check All) ] をクリックしてすべての vNIC を選択します。
  - ステップ 5 [選択 (Select) ] をクリックします。
  - ステップ 6 [削除 (Delete) ] をクリックします。
- 

削除プロセスを完了するために VM が再起動されます。

## vNIC の削除

VM 上の既存 (または複数の) vNIC を削除できます。

### はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成し、既存の vNIC を使用可能な状態にしておきます。管理者はグループの vDC で [エンドユーザセルフサービスオプション (End User Self-Service Options) ] を有効にして、許可を与える必要もあります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックして、[VM] を選択します。
  - ステップ 2 VM を右クリックして [vNIC の削除 (Delete vNICs)] を選択します。  
[VM vNIC の削除 (Delete VM vNICs)] ダイアログボックスが表示されます。
  - ステップ 3 [VM vNIC] ドロップダウンリストから、vNIC を選択します。  
[項目の選択 (Select Items)] ダイアログボックスが表示されます。
  - ステップ 4 削除する vNIC のチェックボックスをオンにするか、[すべてオン (Check All)] をクリックしてすべての vNIC を選択します。
  - ステップ 5 [選択 (Select)] をクリックします。
  - ステップ 6 [削除 (Delete)] をクリックします。
- 

削除プロセスを完了するために VM が再起動されます。

## VM の詳細の表示

この機能では、VM アクション リクエスト、vNIC、VM スナップショット、一般概要などの VM の詳細を表示できます。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックして、[VM] を選択します。
  - ステップ 2 VM を右クリックし、[詳細の表示 (View Details)] を選択します。  
[サマリー (Summary)] 画面が表示されます。
- 

## VM クライアントの起動

この機能を使用して、Web アクセス、リモート、または VNC コンソールのいずれかを設定できます。VNC コンソールは各 VM にアクセスを提供します。このコンソールは VM の完全な制御機能を備えています。任意のスタンドアロン Web ブラウザを使用してアクセスできるため、プラグインは不要です。Cisco UCS Director はコンソールの自動設定を可能にします。





- (注) VM を Web またはリモート デスクトップ アクセスに設定しておく、VM のログイン クレデンシャルにアクセスできます。管理者は VM がプロビジョニングされる適切なカタログ（および必要な権限）を提供する必要があります。

### はじめる前に

管理者が機能を有効する必要があります。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックして、[VM] を選択します。
- ステップ 2** VM を右クリックして [VM クライアントの起動 (Launch VM Client)] を選択します。  
[クライアントの起動 (Launch Client)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [クライアントの起動 (Launch Client)] ダイアログボックスから、アクセス スキームを選択します。

[名前 (Name)]	説明
[アクセススキーム (Access Scheme)] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストからアクセス スキームを選択します。スキームは VNC コンソール、Web アクセス、およびリモート アクセスです。

- ステップ 4** [続行 (Proceed)] をクリックします。  
VNC コンソールが (Web ブラウザ内に) 表示されます。VM コンソールにアクセスするには、追加のログインが必要です。

## VM のインベントリ収集のリクエスト

VM を選択して、オンデマンドのインベントリ収集をリクエストできます。



- (注) 割り当て済みのリソースを変更すると、VM のチャージバック量が増える可能性があります。VM のチャージバックはカタログの管理者によって定義されたコストモデルに基づいて計算されます。VM のチャージバックは VM のプロビジョニング用に選択されたカタログに基づいて計算されます。

## 手順

---

- ステップ 1** メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックして、[VM] を選択します。
- ステップ 2** VM を右クリックして [VM のインベントリ収集のリクエスト (Request Inventory Collection Request for VM)] を選択します。  
[VM インベントリ収集のリクエスト (Request VM Inventory Collection)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [送信 (Submit)] をクリックします。  
VM インベントリ収集が完了されます。
-



## 第 6 章

# VM スナップショットの管理

---

この章は、次の項で構成されています。

- [VM スナップショットの管理, 49 ページ](#)
- [VM スナップショットの表示, 50 ページ](#)
- [スナップショットの作成, 50 ページ](#)
- [スナップショットの復帰, 51 ページ](#)
- [スナップショットをゴールデンとしてマーキング, 52 ページ](#)
- [スナップショットの削除, 53 ページ](#)
- [すべてのスナップショットの削除, 54 ページ](#)

## VM スナップショットの管理

エンドユーザは、システムの障害や誤作動からの復旧の際に復元ポイントのスナップショットを作成して管理できます。復元ポイントはある時点での VM の完全な状態です。スナップショットを適宜に作成して、VM の現在の状態を保持することができます。たとえば、潜在的なリスクのあるシステム操作を実行する前に、安定した状態の VM のスナップショットを作成しておくことができます。複数のスナップショットを作成した後で VM スナップショットのサマリーレポートを表示して、将来使用するために保持しておくスナップショット（ゴールデン スナップショット）を決めることができます。ゴールデン スナップショットは削除できません。



---

(注) VM から VM スナップショットのオプションにアクセスするには、管理者がグループの vDC で [VMスナップショット管理 (VM Snapshot Management)] を有効にして、許可を与えることが必要です。

---

### はじめる前に

VM をプロビジョニングします。

## VM スナップショットの表示

### はじめる前に

スナップショットを表示するには、管理者がグループの vDC で [VMスナップショット管理 (VM Snapshot Management) ] オプションを有効にする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources) ] > [VM] を選択します。
  - ステップ 2 VM を選択して、[詳細の表示] > [VMスナップショット] タブをクリックします。
  - ステップ 3 表示するスナップショットを選択します。
- 

## スナップショットの作成

この機能では、すべての VM のリソースのスナップショットが現在の状態で作成されます。特定のスナップショット (状態) に戻すこともできます。



- 
- (注) VM オプションでスナップショットの作成にアクセスするには、管理者はグループの vDC で [VMスナップショット管理 (VM Snapshot Management) ] オプションを有効にして、許可を与える必要があります。
- 

### はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。管理者はグループの vDC で [VMスナップショット管理] オプションを有効にして、許可を与える必要もあります。

### 手順

- 
- ステップ 1 メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources) ] をクリックして、[VM] を選択します。
  - ステップ 2 VM を右クリックして [スナップショットの作成 (Create Snapshot) ] を選択します。  
[仮想マシンのスナップショットの作成 (Create Virtual Machine Snapshot) ] ダイアログボックスが表示されます。
  - ステップ 3 次のフィールドとチェックボックスを入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[スナップショット名 (Snapshot Name) ] フィールド	スナップショットの名前。

[名前 (Name) ]	説明
[スナップショットの説明 (Snapshot Description) ] フィールド	スナップショットの説明。
[スナップショットメモリ (Snapshot Memory) ] チェックボックス	VM メモリを含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[ゲストのファイルシステムを休止 (Quiesce Guest File System) ] チェックボックス	<p>休止モードでスナップショットを作成するには、このチェックボックスをオンにします。ファイルシステムの休止は、物理または仮想コンピュータのディスク上のデータをバックアップに適した状態にするプロセスです。このプロセスには、ダーティなメモリ バッファをオペレーティングシステムのメモリ内キャッシュからディスクにフラッシュしたり、その他のより高いレベルのアプリケーション固有のタスクを実行したりする操作が含まれる場合があります。</p> <p>(注) このオプションを使用するには、VMware ツールを VM にインストールしている必要があります。</p>

ステップ 4 [続行 (Proceed) ] をクリックします。

## スナップショットの復帰

なんらかの理由で VM のクラッシュまたは誤動作が発生した場合、VM の最新のスナップショットに復帰させることができます。使用可能な VM のスナップショットが複数ある場合は、特定のスナップショットを選択して復帰させることもできます。



(注) VM でスナップショットの復帰オプションにアクセスするには、管理者がグループの vDC で [VMスナップショット管理] オプションを有効にして、許可を与える必要があります。

### はじめる前に

プロビジョニング済み VM を作成します。

## 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックして、[VM] を選択します。
- ステップ 2** VM を右クリックして [スナップショットの復帰] を選択します。  
[仮想マシンスナップショットの復帰 (Revert Virtual Machine Snapshot)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** 次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

[名前 (Name)]	説明
[スナップショット (Snapshot)] チェックボックス	オンにした場合、スナップショットとして定義されます。

- ステップ 4** [続行 (Proceed)] をクリックします。

## スナップショットをゴールデンとしてマーキング

スナップショットをゴールデンとしてマーキングすると、不用意な削除を防ぐことができます。ゴールデンスナップショットを削除する唯一の方法は、ゴールデンスナップショットのマーキングを解除する (標準のスナップショットに戻す) ことです。



- (注) VM でスナップショットをゴールデンとしてマーキングするオプションにアクセスするには、管理者がグループの vDC で [VM スナップショット管理] オプションを有効にして、許可を与える必要があります。

### はじめる前に

スナップショットを作成します。

## 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックして、[VM] を選択します。
- ステップ 2** VM を右クリックして [ゴールデンスナップショットのマーキング (Mark Golden Snapshot)] を選択します。  
[ゴールデンスナップショットのマーキング (Mark Golden Snapshot)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** 次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

[名前 (Name) ]	説明
[スナップショット (Snapshot) ] チェックボックス	このチェックボックスをオンにして、スナップショットを選択します。
[ゴールデンスナップショットとしてマーキング (Marks As Golden Snapshot) ] チェックボックス	このチェックボックスをオンにして、スナップショットをゴールデンスナップショットとして指定します。

**ステップ 4** [続行 (Proceed) ] をクリックします。

## スナップショットの削除

スナップショットは、ゴールデンスナップショットとしてマーキングされていない限り削除が可能です。重要ではないと判断されるスナップショットを削除して、より新しいスナップショットのためにディスク スペースを増やすことができます。



(注) VM でスナップショットの削除オプションにアクセスするには、管理者がグループの vDC で [VM スナップショット管理 (VM Snapshot Management) ] オプションを有効にして、許可を与える必要があります。

### はじめる前に

スナップショットを作成します。

### 手順

**ステップ 1** メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources) ] をクリックして、[VM] を選択します。

**ステップ 2** VM を右クリックして [スナップショットの削除 (Delete Snapshot) ] を選択します。  
[スナップショットの削除 (Delete Snapshot) ] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 3** 次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

[名前 (Name) ]	説明
[スナップショット (Snapshot) ] チェックボックス	このチェックボックスをオンにして、スナップショットを選択します。
[子の削除 (Delete Children) ] チェックボックス	選択したスナップショットの子を削除するには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [続行 (Proceed) ] をクリックします。

## すべてのスナップショットの削除

ゴールデン スナップショットがなければ、すべてのスナップショットを削除できます。すべてのスナップショットを削除するには、最初にゴールデン スナップショットのマーキングを解除しておく必要があります。



(注) VMですべてのスナップショットを削除するオプションにアクセスするには、管理者がグループの vDC で [VMスナップショット管理 (VM Snapshot Management) ] オプションを有効にして、許可を与える必要があります。

### はじめる前に

スナップショットを作成します。

### 手順

ステップ 1 メニュー バーで、[仮想リソース (Virtual Resources) ] をクリックして、[VM] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [すべてのスナップショットの削除 (Delete All Snapshots) ] を選択します。[すべてのスナップショットの削除 (Delete All Snapshots) ] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

[名前 (Name) ]	説明
[すべてのスナップショットの削除 (Delete All Snapshots) ] チェックボックス	すべてのスナップショットを削除するには、このチェックボックスをオンします。

ステップ 4 [続行 (Proceed) ] をクリックします。





## 第 7 章

# エンドユーザ レポートの表示

この章は、次の項で構成されています。

- [エンドユーザ レポートの表示, 55 ページ](#)
- [VM サマリーの詳細の表示, 57 ページ](#)
- [仮想リソースの詳細の表示, 57 ページ](#)
- [vDC の詳細の表示, 57 ページ](#)

## エンドユーザ レポートの表示

エンドユーザレポートを使用してさまざまなレポートにアクセスし、VMのライフサイクルアクションの管理に役立てることができます。サマリーページには選択されたVMとそのアクションに関する詳細情報が表示されます。

レポートセクション	説明
概要	
[VM ID]	VM ID 番号。
[クラウド名 (Cloud Name) ]	VM がプロビジョニングされるクラウド (基本的に 1 つの vCenter インストール) 。
[インスタンス名 (Instance Name) ]	VM インスタンスの名前。
[ステータス (Status) ]	VM のステータス。
[IPアドレス (IP Address) ]	VM のステータス IP アドレス。
ホストネーム	VM が存在するホストの名前。
[ブート時間 (Boot Time) ]	VM のブート時間。

レポート セクション	説明
<b>[所有 (Ownership) ]</b>	
グループ	VM が属しているグループ。
ラベル (Label)	VM に定義された可能性のある任意のラベル。
<b>[プロビジョニング時間 (Provisioned Time) ]</b>	VM のプロビジョニングの時間。
<b>[予定終了時刻 (Scheduled Termination Time) ]</b>	VM を終了する予定の時刻。この時刻は、終了時刻が VM に定義されている場合にのみ表示されます。
<b>リソース</b>	
<b>[仮想CPUの数 (Num Virtual CPUs) ]</b>	VM に割り当てられた仮想 CPU の数。
<b>[メモリ(MB) (Memory (MB)) ]</b>	VM に割り当てられたメモリ。
<b>[ストレージ (Storage) ]</b>	
<b>[プロビジョニング済みの総容量(GB) (Total Provisioned (GB)) ]</b>	VM に割り当てられたストレージ。
<b>[ネットワーク (Network) ]</b>	
<b>[vNIC数 (Number of vNICs) ]</b>	仮想ネットワーク インターフェイス カードの数。
<b>[vNic Macアドレス (vNIC Mac Address) ]</b>	仮想ネットワーク インターフェイス カードの Mac アドレス。
<b>[ゲスト情報 (Guest Information) ]</b>	
<b>[ゲストOS (Guest OS) ]</b>	VM で実行中のゲスト OS。

## VM サマリーの詳細の表示

### 手順

- 
- ステップ1 メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources)] > [VM] を選択します。
  - ステップ2 VM を選択します。
  - ステップ3 [詳細の表示 (View Details)] を選択します。
  - ステップ4 [サマリー (Summary)] をクリックします。VM サマリーの詳細が表示されます。
- 

## 仮想リソースの詳細の表示

すべてのグループまたは特定のグループのサービス リクエストのレポートを表形式でエクスポートできます。

### 手順

- 
- ステップ1 [仮想リソース (Virtual Resources)] > [VM] をクリックし、[詳細の表示 (View Details)] を選択します。
  - ステップ2 メニューバーで [サマリー (Summary)] タブをクリックし、複数ウィジェットによって表示される情報を表示します。
- 

## vDC の詳細の表示

サービス リクエストを使用してプロビジョニングされた VM を仮想データセンター (vDC) と関連付けることができます。サービス リクエストを作成するときに、VM をプロビジョニングする vDC を選択できます。VM をプロビジョニングするときに、グループに使用できる vDC のリストを表示して、必要な vDC を選択できます。vDC 名、および VM の数 (アクティブな数および総数) などの詳細が表示されます。

### 手順

メニューバーで、[仮想リソース (Virtual Resources)] をクリックして、[vDC] タブを選択します。vDC の詳細が表示されます。

[名前 (Name) ]	説明
[ライセンスステータス (License Status) ] タブ	[ライセンスステータス (License Status) ] 画面に現在のライセンス情報が表示されます。
[サマリー (Summary) ] タブ	[サマリー (Summary) ] 画面には、CPU、メモリ、ディスクの使用量を記載した概要および傾向グラフなど、vDCの詳細情報が表示されます。
[vDC] タブ	[vDC] ページには現在アクティブなvDCのリストが表示されます。
[階層化されたアプリケーション (Tiered Applications) ] タブ	[階層化されたアプリケーション] 画面には、現在使用できる階層化アプリケーションがすべてリスト表示されます。
[VM] タブ	[VM] 画面には選択されたvDCに属するすべてのVMが表示されます。
[VMアクションリクエスト (VM Action Requests) ] タブ	[VMアクションリクエスト (VM Action Requests) ] 画面には、使用可能なすべてのアクションIDと関連情報が表示されます。
[ポートグループ (Port Groups) ] タブ	[ポートグループ (Port Groups) ] 画面には使用可能なポートグループとホストノード、vSwitch名、ポートグループ名、ポートグループタイプ、およびVLAN IDなどの関連情報が表示されます。
[DVポートグループ (DV Port Groups) ] タブ	[DVポートグループ (DV Port Groups) ] 画面には使用可能なポートグループとホストノード、vSwitch名、ポートグループ名、ポートグループタイプ、VLAN ID、およびプロミスキャスモードなどの関連情報が表示されます。
[リソースプール (Resource Pools) ] タブ	[リソースプール (Resource Pools) ] 画面には使用可能なクラウドおよび関連する設定情報がリスト表示されます。
[デスクトップ (Desktops) ] タブ	[デスクトップ] 画面には、関連するインスタンスとカタログ名および割り当てステータスが一覧表示されます。

[名前 (Name) ]	説明
[その他のレポート (More Reports) ] タブ	[その他のレポート (More Reports) ] 画面には、さまざまな傾向が異なる (時間) 期間ごとに一覧表示されます。





## 第 8 章

# 物理レポートの表示

- [物理リソースに関するレポートの表示, 61 ページ](#)

## 物理リソースに関するレポートの表示

これらのレポートに加えて、『Cisco UCS Director アドミニストレーションガイド』で説明されているとおり、VM およびその他の項目について CloudSense 分析を作成できます。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[Physical Resources (物理リソース)] を選択します。
- ステップ 2** 物理リソースに関するレポートを表示するには、次のいずれかのタブをクリックします。

タブ	説明
[Vfiler (VFilers)]	このタブでは、現在表示可能な vFiler および報告先のアカウントを確認できます。
[Vservers (Vservers)]	このタブには、使用可能な Vserver が示されます。
[ボリューム グループ (Volume Groups)]	このタブには、ボリュームグループのアカウント名、ボリュームグループ名、サイズ (GB)、使用可能なサイズ、ステータス、および SSN に関する情報が示されます。
サーバ	このタブには使用可能なサーバが示され、選択したサーバの電源をオンにする機能が提供されます。
[サービスプロファイル (Service Profiles)]	このタブには、物理リソースに関連付けられたサービス プロファイルが示されます。
[VNX LUN (VNX LUNs)]	このタブには、物理リソースに関連づけられた VNX LUN が示されます。

タブ	説明
[ブロックストレージプール (Block Storage Pools) ]	このタブには、物理リソースに関連づけられたブロックストレージプールが示されます。
[RAID グループ (Block Storage Pools) ]	このタブには、物理リソースに関連づけられた RAID グループが示されます。
[ファイルストレージプール (File Storage Pools) ]	このタブには、物理リソースに関連づけられたファイルストレージプールが示されます。
[VNX ボリューム (File Storage Pools) ]	このタブには、物理リソースに関連づけられた VNX ボリュームが示されます。
[CloudSense]	このタブでは、物理リソースに基づいて CloudSense 分析レポートを生成できます。

**ステップ 3** 一部のレポートについては、テーブルバー上のアイコンをクリックすることにより、テーブル列をカスタマイズする、結果をフィルタリングする、または現在のテーブルの内容のレポートをエクスポートすることが可能です。

---





## 第 9 章

# アカウンティング リソースの表示

---

この章は、次の項で構成されています。

- [リソース アカウンティングの詳細の表示, 63 ページ](#)
- [チャージバックの表示, 64 ページ](#)

## リソース アカウンティングの詳細の表示

[リソースアカウンティングの詳細 (Resource Accounting Details)] ページを使用して、選択したグループに属する VM のリソースの使用状況を表示できます。アカウンティングプロセスは時間単位で実行されます。この詳細ページには、次の情報が表示されます。

- VM (アクティブ/非アクティブ) 時間
- CPU (予約済み/使用済み) 時間
- メモリ (予約済み/使用済み) 時間
- ディスク (コミット済み/非コミット) 時間
- ネットワーク データ

### はじめる前に

検査するグループを選択します。

### 手順

メニューバーで、[アカウンティング (Accounting)] > [リソースアカウンティングの詳細 (Resource Accounting Details)] を選択します。

## チャージバックの表示

[チャージバック (Chargeback)] 画面に、特定のグループの VM のリソースの使用状況が表示されます。コスト計算はグループの vDC に関連付けられたコスト モデルに基づいて行われます。

### はじめる前に

検査するグループを選択します。

### 手順

メニュー バーで、[アカウントリング (Accounting)] > [チャージバック (Chargeback)] の順に選択します。チャージバックの詳細が表示されます。



# 第 10 章

## エンドユーザ ダッシュボードの表示

---

この章は、次の項で構成されています。

- [エンドユーザ ダッシュボードの表示の有効化, 65 ページ](#)
- [レポートウィジェットの追加, 65 ページ](#)

## エンドユーザ ダッシュボードの表示の有効化

ダッシュボードはエンドユーザとしてアプライアンスにログインしたときに最初に表示されるページです。

### 手順

- ステップ 1 Cisco UCS Director ウィンドウの右上で、[ユーザ名 (User Name)] をクリックします。
  - ステップ 2 [ダッシュボード (Dashboard)] タブをクリックします。
  - ステップ 3 [ダッシュボードの有効化 (Enable Dashboard)] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ 4 [適用 (Apply)] をクリックします。
  - ステップ 5 [ユーザ情報 (User Information)] ダイアログボックスを選択します。
  - ステップ 6 [ダッシュボード (Dashboard)] の内容を確認します。
- 

### 次の作業

該当するダッシュボードの表示にアクセスします。

## レポートウィジェットの追加

レポートウィジェットを使用して、グループのリソース制限およびvDCの詳細を表示することができます。ダッシュボードビューでのウィジェットデータの表示には、自動または手動の更新を

設定できます。自動更新には、ダッシュボード ページの上部にある [オン (On) ] または [オフ (Off) ] をクリックします。ウィジェットのサイズを大きくするまたは小さくするには、スライダを動かします。スライダはダッシュボードの右上に表示されます。

### 手順

- 
- ステップ 1** レポートの右上をクリックします ([サマリー (Summary) ] タブの下にあります)。
  - ステップ 2** ドロップダウンリストから、[ダッシュボードに追加 (Add to Dashboard) ] を選択します。
  - ステップ 3** [ダッシュボード (Dashboard) ] をクリックして、ウィジェットを表示します。
-



# 第 11 章

## ファイルのアップロード サービスの操作

この章は、次の項で構成されています。

- [OVF ファイルのアップロード, 67 ページ](#)
- [OVF ファイルの導入, 69 ページ](#)
- [OVF ファイルの削除, 70 ページ](#)

### OVF ファイルのアップロード

管理者、グループ管理者、またはエンドユーザは、Cisco UCS Director を使用して、OVF ファイル（OVA、zip 形式および jar 形式）を定義済みのストレージロケーションにアップロードし、グループまたは顧客組織に導入できます。



(注) OVF ファイルをアップロードして導入できる権限を持つタイプは、グループの管理者およびエンドユーザのみです。

#### はじめる前に

適切なアクセス権があることを確認します。

#### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理 (Administration)] > [統合 (Integration)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザOVF管理 (User OVF Management)] タブをクリックします。
- ステップ 3** [ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
- ステップ 4** [ファイルのアップロード (Upload File)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[フォルダの種類 (Folder Type) ] ドロップダウンリスト	<p>OVF ファイルが含まれるフォルダのタイプ。次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [パブリック (Public) ]: このファイルは、すべてのパブリック ユーザが利用できます。</li> <li>• [ユーザ (User) ]: エンドユーザである場合は、このロールを選択します。エンドユーザには広範囲の権限は付与されませんが、その主要な目的は問題の識別、修復、およびエスカレートにあります。</li> <li>• [グループ (Group) ]: このファイルは、定義されたグループのユーザのみが利用できます。</li> </ul>
[ファイル名 (File Name) ] フィールド	アップロードおよび導入する OVF ファイルの名前。
[アップロード (Upload) ] オプション	<p>[ファイルのアップロード (File Upload) ] ダイアログボックスが開かれ、OVF ファイルを参照し選択できます。</p> <p>(注) ストレージロケーションにアップロードできるのは、OVF、zip および jar 形式の OVF ファイルのみです。ファイルがアップロードされ、ファイルが使用できるようになったことを示す確認メッセージが表示されます。[送信 (Submit) ] をクリックします。</p> <p>[送信 (Submit) ] ボタンが有効になるのは、[ファイルのアップロード (File Upload) ] ダイアログボックスでファイルがアップロードされた場合だけです。</p>
[ファイルの説明 (File Description) ] フィールド	ファイルの説明 (必要な場合)。

**ステップ 5** [送信 (Submit) ] をクリックします。

**ステップ 6** [送信結果-正常にアップロード (Submit Result - Upload Successfully) ] ダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。アップロードされたファイルは、[ユーザOVF管理 (UserOVF Management) ] テーブルにリストされます。

### 次の作業

OVF ファイルを導入します。

# OVF ファイルの導入

管理者の場合、グループの仮想データセンター (vDC) を選択して、OVF ファイルをグループに導入する権限があります。OVF ファイルが vDC に導入されると、ファイルが自動的に解凍され、vDC に関連付けられた VMware クラウドに VM が導入されます。

## 手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理 (Administration)] > [統合 (Integration)] の順に選択します。
- ステップ 2 [ユーザOVF管理 (User OVF Management)] タブをクリックします。
- ステップ 3 テーブルから OVF ファイルを選択します。
- ステップ 4 [OVFの導入 (Deploy OVF)] をクリックします。
- ステップ 5 [OVFの導入 (Deploy OVF)] ウィンドウで、次のフィールドに入力します。

[名前 (Name)]	説明
[vDCの選択 (Select vDC)] ドロップダウン リスト	vDC を選択します。  (注) グループ管理者およびエンド ユーザはグループに関連付けられた vDC のみを表示できます。
[OVFファイル名 (OVF File Name)] フィールド	選択した OVF ファイルの名前。
[VM名 (VM Name)] フィールド	VM の名前。VM 名を入力しない場合、デフォルト名が自動的に指定されます。
[ユーザ名 (User Name)] フィールド	OVF ユーザ名。
[パスワード (Password)] フィールド	OVF ファイルのパスワード。
[プロビジョニング (Provision)] フィールド	VM をプロビジョニングする時間。  [今すぐ (Now)] または [後で (Later)] のいずれかを選択します。[後で (Later)] を選択した場合は、日付と時刻を選択する必要があります。
[次の期間後にVMの電源をオフにする (Power OFF the VM after)] フィールド	VM の電源が自動的にオフになるまでの日数または時間を指定するには、このチェックボックスをオンにします。
[日数 (Days)] フィールド	VM の電源が自動的にオフになるまでの日数。
[時間 (Hours)] フィールド	VM の電源が自動的にオフになるまでの時間。

- ステップ 6** [送信 (Submit) ] をクリックします。  
OVF ファイルの導入後、サービス リクエストが作成され、導入された OVF のステータスが表示されます。詳細については、「サービス リクエストの表示」のトピックを参照してください。
- 

## OVF ファイルの削除

管理者の場合は、ストレージ領域にあるファイルを削除できます。

### はじめる前に

Cisco UCS Director アプライアンスからファイルを削除するには、適切な権限を取得する必要があります。サービスのエンド ユーザおよびグループ管理者には OVF ファイルを削除する権限があります。

### 手順

---

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理 (Administration) ] > [統合 (Integration) ] の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザOVF管理 (User OVF Management) ] タブをクリックします。
- ステップ 3** OVF ファイルをテーブルから選択し、[ファイルの削除 (Delete File) ] をクリックします。  
[ファイルの削除 (Delete File) ] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** [送信 (Submit) ] をクリックします。
-





# 第 12 章

## カタログの操作

---

この章は、次の項で構成されています。

- [カタログ管理について](#), 71 ページ
- [カタログの整理](#), 72 ページ
- [詳細カタログの公開について](#), 73 ページ
- [カタログの作成](#), 73 ページ
- [カタログの編集](#), 79 ページ

## カタログ管理について

事前定義されたカタログ項目を使用して仮想マシン（VM）のセルフプロビジョニングができます。システム管理者またはエンドユーザがカタログを作成できます。カタログは、VM をバインドするクラウドの名前やグループの名前などのパラメータを定義します。

次のフォルダがデフォルトで使用可能になっています。編集や削除はできません。

- 標準（Standard）
- 詳細設定（Advanced）
- [サービスコンテナ（Service Container）]
- ベア メタル

カタログ管理に役立つものとして、Cisco UCS Director ではフォルダ内の類似カタログをグループ化できます。カタログを作成するとき、前に作成したフォルダに追加するか、新しいフォルダを作成するかを選択できます。フォルダはカタログが含まれている場合にのみシステムに表示されます。

[カタログ（Catalog）] ページの [フォルダの管理（Manage Folder）] オプションでは、次のタスクを実行できます。

- フォルダの編集：ユーザが作成したフォルダの名前またはすべてのフォルダのフォルダアイコンを変更します。デフォルト フォルダの名前は変更できません。
- フォルダの削除：Cisco UCS Director からフォルダを削除します。このフォルダにカタログが含まれていると、これらのカタログはカタログ タイプに基づいてデフォルトで使用可能なフォルダに自動的に移動されます。  
デフォルト フォルダは削除できません。
- フォルダのリストの並び替え：フォルダが[カタログ (Catalog) ]ページに表示される順序を変更します。デフォルトでは、フォルダがアルファベット順に表示されます。



**重要** Cisco UCS Director を最新バージョンにアップグレードした場合は、以前のバージョンで作成されたすべてのカタログはカタログ タイプに基づいて、使用可能なフォルダにデフォルトでグループ化されます。

デフォルトでは、カタログがタイル ビュー形式で表示されます。



(注) [カタログ (Catalogs) ] オプションをメニュー バーに配置すると、カタログ関連のすべてのオプションに簡単にアクセスできます。インターフェイスの右上にあるユーザ名をクリックし、[ユーザ情報 (User Information) ] ダイアログボックスの[カタログ (Catalogs) ] タブを選択し、[カタログの有効化 (Enable Catalogs) ] チェックボックスをオンにします。

## カタログの整理

Self-Service Portalでは、フォルダ内のカタログが名前別に整理されます。カタログ タイプ用にデフォルト フォルダのセットが自動的に作成され、アルファベット順に並び替えられます。ただし、これらのデフォルト フォルダを使用する必要はありません。カタログを作成するときには、デフォルトのフォルダに配置することも、自分で選択した名前のカスタム フォルダに配置することも可能です。たとえば、標準カタログを作成して VM 用の Windows 2012 オペレーティング システムをプロビジョニングする場合、Cisco UCS Director にカタログを標準フォルダに配置させることも、VM-Windows2012OS のようにオペレーティング システムを示す名前を付けたカスタム フォルダを作成することもできます。

Cisco UCS Director で管理者により作成されたカタログ フォルダは Self-Service Portal に表示されず。

[カタログ (Catalog) ] ペイン内では [上へ移動 (Move Up) ] および [下へ移動 (Move Down) ] アイコンを使用してカタログ フォルダの整理方法を変更できます。



- (注) また [フォルダの管理 (Manage Folder) ] アイコンを使用してフォルダを選択し、既存フォルダ間で移動することもできます。
- Cisco UCS Director 内でカタログを作成する場合、管理者はそのカタログを表示できるユーザグループまたは特定のユーザを指定できます。選択されたグループのユーザには、適切なカタログが表示されます。

## 詳細カタログの公開について

高度なカタログタイプを選択すると、ワークフローカタログをプロビジョニングできます。サービスリクエストの間、エンドユーザはこれらのカタログを使ってワークフローを実行できます。高度なカタログ項目は、グループ名やワークフローなどのパラメータを定義することにより作成します。

## カタログの作成

### 手順

- ステップ 1** メニューバーで、[カタログ (Catalog) ] をクリックします。
- ステップ 2** [追加 (Add) ] (+) をクリックします。
- ステップ 3** [カタログの追加 (Catalog Add) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[カタログタイプ (Catalog Type) ] ドロップダウンメニュー	次のリストから値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [標準 (Standard) ] : このカタログのタイプは一般的なサービスリクエスト (汎用 VM のプロビジョニング) に使用されます。</li> <li>• [詳細 (Advanced) ] : このカタログのタイプはワークフロー実行に使用され、 (このワークフローは) 呼び出すことができエンドユーザが実行することもできます。</li> <li>• [サービスコンテナ (Service Container) ] : このカタログのタイプはアプリケーションコンテナの VM プロビジョニングに使用されます。</li> </ul>

- ステップ 4** [送信 (Submit) ] をクリックします。
- ステップ 5** [基本情報 (Basic Information pane) ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[カタログ名 (Catalog Name) ] フィールド	カタログの名前。 (注) カatalogを作成した後では、名前は変更できません。
[カタログの説明 (Catalog Description) ] フィールド	カタログの説明。
[カタログタイプ (Catalog Type) ] ドロップダウン リスト	これは前の手順で事前に選択されています。
[カタログアイコン (Catalog Icon) ] ドロップダウンリスト	このカタログに関連付けるイメージのアイコンをリストから選択します。このアイコンは、このカタログを使用してサービス リクエストを作成するときに表示されます。
[クラウド名 (Cloud Name) ] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニング用のイメージがあるクラウドを選択します。
[イメージ (Image) ] ドロップダウン リスト	このカタログを使用してVMをプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ (イメージを構成する Windows ファイル、Linux ファイル、およびそのほかのファイルなどの既存のテンプレート) を選択します。
[フォルダの選択 (Select Folder) ] ドロップダウン リスト	カタログのフォルダを選択します。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Applications Details (アプリケーションの詳細) ] ペインで、次のフィールドを編集します。

[名前 (Name) ]	説明
[カテゴリ (Category) ] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[オーバーライド (Override) ] チェックボックス	サービス リクエストを使用した VM のプロビジョニング時に、選択したカテゴリをエンドユーザーがオーバーライドできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス (Support Contact Email Address) ] フィールド	このカタログ項目を使用してサービス リクエストが作成されたときに通知が送信される問い合わせ先の電子メールアドレス。

[名前 (Name) ]	説明
[OSの指定 (Specify OS) ] ドロップダウン リスト	<p>VMのプロビジョニング時に、VMにインストールされる OS のタイプを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[他のOSの指定 (Specify Other OS) ] フィールド	<p>[OS の指定 (Specify OS) ] リストにない OS を指定します。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[アプリケーションの指定 (Specify Applications) ] チェックボックス リスト	<p>[項目の選択 (Select Items) ] ダイアログボックスで、適切なチェックボックスをオンにしてアプリケーションを指定します。これらのアプリケーションはプロビジョニング中にVMにインストールされます。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[他のアプリケーションの指定 (Specify Other Applications) ] フィールド	<p>[項目の選択 (Select Items) ] ダイアログボックスにないアプリケーションを指定します。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[アプリケーションコード (Application Code) ] フィールド	<p>VM名に使用するアプリケーションコードを指定します。</p> <p>アプリケーション コードは1～4文字です (例: W2K3、DB、WS)。VM名のシステムポリシーでアプリケーションコードを使用するには、変数 <code>\${APPCODE}</code> を使用します。</p> <p>たとえば VM名のテンプレートが <code>vm-\${GROUP_NAME}-\${APPCODE}</code> の場合、システムポリシーを使用してプロビジョニングされた VMの名前は <code>vm-groupname-W2K3</code> になります。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>

**ステップ 8** [Next] をクリックします。

**ステップ 9** [ユーザクレデンシャル (User Credentials) ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[クレデンシャルのオプション (Credential Options) ] ドロップダウンリスト	ユーザに対し、VM アクセス クレデンシャル (共有) の取得を許可するか、または禁止するかを選択します。
[ユーザID (User ID) ] フィールド	ユーザ ID。  (注) このフィールドは、[クレデンシャル オプション (Credential Options) ] で選択が行われた場合に限り使用できます。
[パスワード (Password) ] フィールド	ユーザのパスワード。  (注) このフィールドは、[クレデンシャル オプション (Credential Options) ] で選択が行われた場合に限り使用できます。

**ステップ 10** [カスタマイズ (Customization) ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[自動ゲストカスタマイズの有効化 (Automatic Guest Customization Enable) ] チェックボックス	自動ゲスト カスタマイズを有効にするには、チェックボックスをオンにします。  このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco UCS Director では DNS、ネットワーク、およびゲスト OS プロパティが設定されません。
[プロビジョニング後のカスタムアクション (Post Provisioning Custom Actions) ] チェックボックス	VM のプロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[ワークフロー (Workflow) ] ドロップダウンリスト	プロビジョニング用に定義されたワークフローを選択します。  (注) このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション (Post Provisioning Custom Actions) ] がオンの場合にのみ表示されます。
[仮想ストレージカタログの有効化 (Virtual Storage Catalog Enable) ] チェックボックス	仮想ストレージ カタログからストレージ エンティティを選択するには、チェックボックスをオンにします。

[名前 (Name) ]	説明
[仮想ストレージカタログ (Virtual Storage Catalog) ] ドロップダウン リスト	カタログからストレージ エントリを選択します。 (注) このオプションは、[仮想ストレージカタログの有効化 (Virtual Storage Catalog Enable) ] チェックボックスにマークが付いている则表示されます。
[コスト計算 (Cost Computation) ]	
[請求期間 (Charge Duration) ] ドロップダウン リスト	[毎時 (Hourly) ] または [毎月 (Monthly) ] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト (Active VM Application Cost) ] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[非アクティブなVMアプリケーションコスト (Inactive VM Application Cost) ] フィールド	時間あたり、または月あたりに非アクティブなVM のカタログにかかるコスト。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
VM ライフサイクル設定	
[リース時間 (Lease Time) ] チェック ボックス	リース時間 (日、時間単位) を定義するには、チェックボックスをオンにします。
[日 (Day) ] フィールド	日数を指定します。 このフィールドは、[リース時間 (Lease Time) ] チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[時間 (Hours) ] フィールド	時間数を指定します。 このフィールドは、[リース時間 (Lease Time) ] チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[エンド ユーザのリース設定を隠す (Hide end user lease configuration) ] チェックボックス	サービスのエンドユーザがVM のリース時間を設定しないようにするには、チェックボックスをオンにします。
[エンド ユーザの VM プロビジョニングを後で隠す (Hide end user VM provision later) ] チェックボックス	サービス エンドユーザが後から VM をプロビジョニングしないようにするには、チェックボックスをオンにします。

ステップ 11 [Next] をクリックします。

ステップ 12 [VMアクセス (VM Access) ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[Webアクセス設定 (Web Access Configuration) ]	
[有効 (Enable) ] チェック ボックス	VM への Web アクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VM への Web アクセスは無効になっています。
[URL] フィールド	VM の URL。 (注) このオプションは、[Webアクセス設定 (Web Access Configuration) ] がオンの場合に表示されます。
[ラベル (Label) ] フィールド	この URL に定義されたラベル (注) このオプションは、[Webアクセス設定 (Web Access Configuration) ] がオンの場合に表示されます。
[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration) ]	
[有効 (Enable) ] チェック ボックス	VM へのリモートアクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VM へのリモートデスクトップ接続は無効になっています。
[サーバ (Server) ] フィールド	サーバのリモート アクセス用 IP アドレス。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration) ] がオンの場合に表示されます。
[ポート (Port) ] フィールド	サーバのリモート アクセス用ポート番号。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration) ] がオンの場合に表示されます。



[名前 (Name) ]	説明
[ラベル (Label) ]フィールド	このリモート アクセス用に定義されたラベル (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration) ]がオンの場合に表示されます。
[VMRCコンソールの設定 (VMRC Console Configuration) ]	
[有効 (Enable) ]チェック ボックス	VMRC コンソールが VM にアクセスできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VM への VMRC コンソール アクセスは無効になっています。

- ステップ 13 [Next] をクリックします。
- ステップ 14 [サマリー (Summary) ] ページのカタログ情報を確認します。
- ステップ 15 [送信 (Submit) ] をクリックします。

## カタログの編集

### 手順

- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies) ][カタログ (Catalogs) ] > [ の順に選択します。
- ステップ 2 [カタログ (Catalog) ] タブを選択します。
- ステップ 3 編集するカタログ名を選択します。
- ステップ 4 [編集 (Edit) ] をクリックします。
- ステップ 5 [カタログの修正 (Modify Catalog) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[基本情報 (Basic Information) ] ペイン	
[カタログ名 (Catalog Name) ] フィールド	カタログの名前を入力します。 (注) 作成したカタログ名は変更できません。

[名前 (Name) ]	説明
[カタログの説明 (Catalog Description) ]フィールド	カタログの説明を入力します。
[カタログタイプ (Catalog Type) ]ドロップダウンリスト	<p>カタログのタイプ。次のいずれかを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [標準 (Standard) ]: クラウドリストにあるイメージを使用してVMプロビジョニングのためのカタログを作成する場合に使用します。</li> <li>• [詳細 (Advanced) ]: カタログ項目などのオーケストレーションワークフローを公開する場合に使用します。</li> <li>• [サービスコンテナ (Service Container) ]: カタログ項目としてアプリケーションコンテナを公開する場合に使用します。</li> <li>• [ベアメタルカタログ (Bare Metal Catalog) ]: ベアメタルサーバのプロビジョニング用のカタログ作成に使用します。</li> </ul>
[カタログアイコン (Catalog Icon) ]ドロップダウンリスト	このカタログに関連付けるイメージのアイコンをリストから選択します。このアイコンは、このカタログを使用してサービスリクエストを作成するときに表示されます。
[すべてのグループに適用 (Applied to all groups) ]チェックボックス	すべてのグループがこのカタログを使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。他のグループによる使用を拒否するには、マークを外したままにします。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス (Support Contact Email Addresses) ]フィールド	サポート連絡先の電子メールアドレスを指定します。
[選択されたグループ (Selected Groups) ]チェックボックスリスト	[選択した項目 (Select Items) ]ダイアログボックスに含まれているグループのチェックボックスをオンにします。オンにしたグループは、新しいVMをプロビジョニングするときにこのカタログを使用します。

[名前 (Name) ]	説明
[エンドユーザへ公開 (Publish to end users) ] チェックボックス	デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。このカタログがエンドユーザに表示されないようにするには、このチェックボックスのマークを外します。このチェックボックスのマークを外さなかった場合、このカタログはシステムのエンドユーザに表示されます。
[クラウド名 (CloudName) ]ドロップダウンリスト	VM プロビジョニング用のイメージがあるクラウドを選択します。
[ISO マウント用の新しいVMのプロビジョニング (Provision new VM for ISO mounting) ] チェックボックス	選択されたイメージからVMを複製するには、このチェックボックスにオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、空のVMが作成されます。
[イメージ (Image) ]フィールド	<p>このカタログを使用してVMをプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ（イメージを構成する Windows ファイル、Linux ファイル、およびその他のファイルなどの既存のテンプレート）を選択します。</p> <p>グループ管理者である場合や、カタログを作成する権限のあるグループのエンドユーザである場合は、属しているグループに割り当てられたイメージがこのフィールドに表示されます。</p> <p>MSP 管理者である場合は、ご自身の MSP 組織と MSP 組織内のグループに割り当てられたイメージがこのフィールドに表示されます。</p>
[Windows ライセンスプール (Windows License Pool) ]フィールド	<p>Windows ライセンスを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、Windows イメージが選択されて場合にのみ表示されます。このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>

[名前 (Name) ]	説明
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニング (Provision all disks in single datastore) ] チェックボックス	<p>単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングするには、このチェックボックスをオンにします。ストレージポリシーで各ディスクに対して設定されているデータストアを使用することも選択できます。</p> <p>(注) このオプションは、選択されたテンプレートに複数のディスクがある場合に表示されます。このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[サービスコンテナテンプレート名 (Service Container Template Name) ] ドロップダウン リスト	<p>リストからテンプレートを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、カタログタイプがサービス コンテナである場合に表示されます。</p>
[フォルダの選択 (Select Folder) ] ドロップダウン リスト	<p>このカタログの作成先となるフォルダを選択します。</p> <p>(注) ドロップダウン リストには、デフォルトで使用可能なフォルダの名前が含まれます。使用可能なフォルダを選択するか、または [+] アイコンをクリックして新しいフォルダを作成します。</p> <p>新しいフォルダを作成するには、[新しいフォルダの追加 (Add New Folder) ] ダイアログボックスで、フォルダ名を指定し、そのフォルダのアイコンを選択します。</p>

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Applications Details (アプリケーションの詳細) ] ペインで、次のフィールドを編集します。

[名前 (Name) ]	説明
[カテゴリ (Category) ] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[オーバーライド (Override) ] チェックボックス	サービス リクエストを使用した VM のプロビジョニング時に、選択したカテゴリをエンドユーザーがオーバーライドできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[名前 (Name) ]	説明
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス (Support Contact Email Address) ] フィールド	このカタログ項目を使用してサービスリクエストが作成されたときに通知が送信される問い合わせ先の電子メールアドレス。
[OSの指定 (Specify OS) ] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング時に、VMにインストールされる OS のタイプを選択します。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。
[他のOSの指定 (Specify Other OS) ] フィールド	[OS の指定 (Specify OS) ] リストにない OS を指定します。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。
[アプリケーションの指定 (Specify Applications) ] チェックボックス リスト	[項目の選択 (Select Items) ] ダイアログボックスで、適切なチェックボックスをオンにしてアプリケーションを指定します。これらのアプリケーションはプロビジョニング中にVMにインストールされます。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。
[他のアプリケーションの指定 (Specify Other Applications) ] フィールド	[項目の選択 (Select Items) ] ダイアログボックスにないアプリケーションを指定します。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。
[アプリケーションコード (Application Code) ] フィールド	VM名に使用するアプリケーションコードを指定します。 アプリケーション コードは1～4文字です (例: W2K3、DB、WS)。VM名のシステムポリシーでアプリケーションコードを使用するには、変数 <code>\${APPCODE}</code> を使用します。 たとえば VM 名のテンプレートが <code>vm-<code>{GROUP_NAME}</code>-<code>{APPCODE}</code></code> の場合、システムポリシーを使用してプロビジョニングされた VM の名前は <code>vm-groupname-W2K3</code> になります。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。

ステップ 8 [Next] をクリックします。

ステップ 9 [ユーザクレデンシャル (User Credentials) ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[クレデンシャルのオプション (Credential Options) ] ドロップダウン リスト	ユーザに対し、VM アクセス クレデンシャル (共有) の取得を許可するか、または禁止するかを選択します。
[ユーザID (User ID) ] フィールド	ユーザ ID。  (注) このフィールドは、[クレデンシャル オプション (Credential Options) ] で選択が行われた場合に限り使用できます。
[パスワード (Password) ] フィールド	ユーザのパスワード。  (注) このフィールドは、[クレデンシャル オプション (Credential Options) ] で選択が行われた場合に限り使用できます。

ステップ 10 [Next] をクリックします。

ステップ 11 [カスタマイズ (Customization) ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[自動ゲストカスタマイズの有効化 (Automatic Guest Customization Enable) ] チェックボックス	自動ゲスト カスタマイズを有効にするには、チェックボックスをオンにします。  このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco UCS Director では DNS、ネットワーク、およびゲスト OS プロパティが設定されません。
[プロビジョニング後のカスタムアクション (Post Provisioning Custom Actions) ] チェックボックス	VM のプロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[ワークフロー (Workflow) ] ドロップダウン リスト	プロビジョニング用に定義されたワークフローを選択します。  (注) このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション (Post Provisioning Custom Actions) ] がオンの場合にのみ表示されます。

[名前 (Name) ]	説明
[仮想ストレージカタログの有効化 (Virtual Storage Catalog Enable) ] チェックボックス	仮想ストレージカタログからストレージエンティティを選択するには、チェックボックスをオンにします。
[仮想ストレージカタログ (Virtual Storage Catalog) ] ドロップダウン リスト	<p>カタログからストレージエントリを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、[仮想ストレージカタログの有効化 (Virtual Storage Catalog Enable) ] チェックボックスにマークが付いていると表示されます。</p>
[コスト計算 (Cost Computation) ]	
[請求期間 (Charge Duration) ] ドロップダウン リスト	[毎時 (Hourly) ] または [毎月 (Monthly) ] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト (Active VM Application Cost) ] フィールド	<p>テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。</p> <p>(注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。</p>
[非アクティブなVMアプリケーションコスト (Inactive VM Application Cost) ] フィールド	<p>時間あたり、または月あたりに非アクティブなVMのカタログにかかるコスト。</p> <p>(注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。</p>
VM ライフサイクル設定	
[リース時間 (Lease Time) ] チェック ボックス	リース時間 (日、時間単位) を定義するには、チェックボックスをオンにします。
[日 (Day) ] フィールド	<p>日数を指定します。</p> <p>このフィールドは、[リース時間 (Lease Time) ] チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。</p>
[時間 (Hours) ] フィールド	<p>時間数を指定します。</p> <p>このフィールドは、[リース時間 (Lease Time) ] チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。</p>
[エンドユーザのリース設定を隠す (Hide end user lease configuration) ] チェックボックス	サービスのエンドユーザがVMのリース時間を設定しないようにするには、チェックボックスをオンにします。

[名前 (Name) ]	説明
[エンドユーザの VM プロビジョニングを後で隠す (Hide end user VM provision later) ] チェックボックス	サービス エンド ユーザが後から VM をプロビジョニングしないようにするには、チェックボックスをオンにします。

ステップ 12 [Next] をクリックします。

ステップ 13 [VMアクセス (VM Access) ] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name) ]	説明
[Webアクセス設定 (Web Access Configuration) ]	
[有効 (Enable) ] チェック ボックス	VM への Web アクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VM への Web アクセスは無効になっています。
[URL] フィールド	VM の URL。 (注) このオプションは、[Webアクセス設定 (Web Access Configuration) ] がオンの場合に表示されます。
[ラベル (Label) ] フィールド	この URL に定義されたラベル (注) このオプションは、[Webアクセス設定 (Web Access Configuration) ] がオンの場合に表示されます。
[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration) ]	
[有効 (Enable) ] チェック ボックス	VM へのリモートアクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VM へのリモートデスクトップ接続は無効になっています。
[サーバ (Server) ] フィールド	サーバのリモート アクセス用 IP アドレス。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration) ] がオンの場合に表示されます。



[名前 (Name) ]	説明
[ポート (Port) ] フィールド	サーバのリモート アクセス用ポート番号。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration) ]がオンの場合に表示されます。
[ラベル (Label) ] フィールド	このリモート アクセス用に定義されたラベル (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration) ]がオンの場合に表示されます。
[VMRCコンソールの設定 (VMRC Console Configuration) ]	
[有効 (Enable) ] チェック ボックス	VMRC コンソールがVMにアクセスできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VMへのVMRC コンソールアクセスは無効になっています。

- ステップ 14 [Next] をクリックします。
- ステップ 15 [サマリー (Summary) ] ページのカタログ情報を確認します。
- ステップ 16 [送信 (Submit) ] をクリックします。

